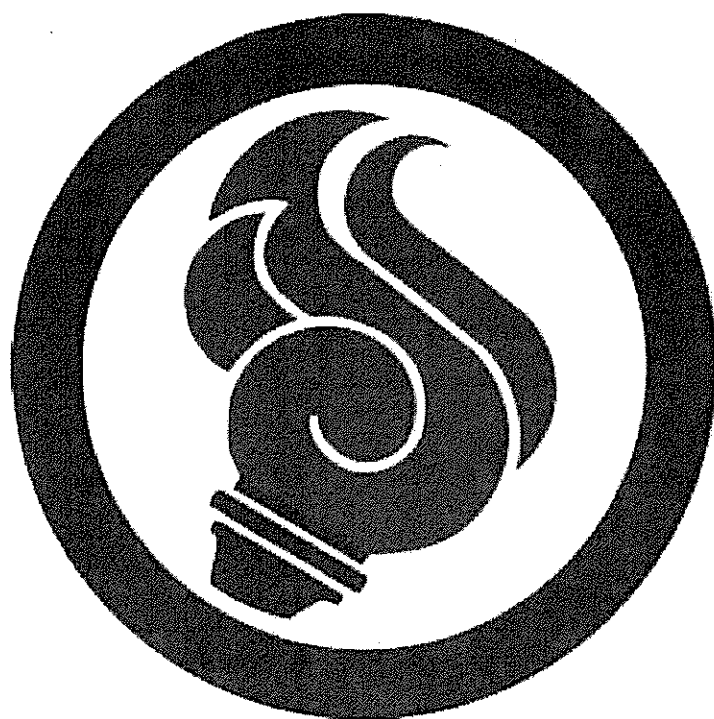


三重県競技力向上対策本部

第 6 回競技力向上対策委員会



平成28年3月24日（木）

プラザ洞津 末広の間

三重県競技力向上対策本部 第6回競技力向上対策委員会 資料目次

- 三重県競技力向上対策本部 第6回競技力向上対策委員会 会議次第 P 3

- 説明・報告事項
 - (報告事項1) 三重県競技力向上対策本部 会議等の開催経過 P 7
 - (報告事項2) 三重県競技力向上対策本部 第5回競技力向上対策委員会の概要 P 8
 - (報告事項3) 三重県競技力向上対策本部 各専門委員会の概要 P 10
 - (報告事項4) 第70回国民体育大会における総合成績 P 16
 - (報告事項5) 平成27年度三重県競技力向上対策事業の実施報告及び成果について P 18

- 審議事項
 - (審議事項1) 三重県競技力向上対策基本方針における目標及び計画について P 21
 - (審議事項2) 平成28年度三重県競技力向上対策事業(案)について P 23

- 協議事項
 - (協議事項1) 育成期における競技力向上の取組について P 61
 - (協議事項2) 競技団体の戦略的な支援について P 73

- 参考資料
 - ・ 三重県競技力向上対策委員会規程 P 79
 - ・ 三重県競技力向上対策本部 競技力向上対策委員会名簿 P 81

三重県競技力向上対策本部
第6回競技力向上対策委員会 会議次第

平成28年3月24日(木)

プラザ洞津 末広の間

1 開 会

2 あいさつ

3 説明・報告事項

- (1) 三重県競技力向上対策本部 会議等の開催経過
- (2) 三重県競技力向上対策本部 第5回競技力向上対策委員会の概要
- (3) 三重県競技力向上対策本部 各専門委員会の概要
- (4) 第70回国民体育大会における総合成績
- (5) 平成27年度三重県競技力向上対策事業の実施報告及び成果について

4 審議事項

- (1) 三重県競技力向上対策基本方針における目標及び計画について
- (2) 平成28年度三重県競技力向上対策事業(案)について

5 協議事項

- (1) 育成期における競技力向上の取組について
- (2) 競技団体の戦略的な支援について

6 閉 会

説明・報告事項

三重県競技力向上対策本部 会議等の開催経過

年月日	内 容
平成23年 11月15日	県、県教育委員会、財団法人三重県体育協会の連名により、文部科学省、公益財団法人日本体育協会に開催要望書を提出しました。
平成24年 1月11日	公益財団法人日本体育協会理事会において、平成33年第76回国民体育大会の本県開催が内々定されました。
平成25年 5月29日	三重県競技力向上対策本部「設立会議」、「第1回本部会議」を開催しました。
6月 3日	三重県競技力向上対策本部「第1回競技力向上対策委員会」を開催しました。
	三重県競技力向上対策本部「第1回成年選手強化専門委員会」(11月19日)、「第1回ジュニア・少年選手強化専門委員会」(12月13日)、「第1回企業等連絡調整専門委員会」(12月16日)を開催しました。
平成26年 3月24日	三重県競技力向上対策本部「第2回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月22日	三重県競技力向上対策本部「第2回本部会議」を開催しました。
10月 1日	三重県競技力向上対策本部「第3回競技力向上対策委員会」を開催しました。
	三重県競技力向上対策本部「第2回ジュニア・少年選手強化専門委員会」(11月13日)、「第2回企業等連絡調整専門委員会」「第2回成年選手強化専門委員会」(11月19日)を開催しました。
平成27年 3月19日	三重県競技力向上対策本部「第4回競技力向上対策委員会」を開催しました。
4月22日	三重県競技力向上対策本部「第3回本部会議」を開催しました。
9月 4日	三重県競技力向上対策本部「第5回競技力向上対策委員会」を開催しました。
11月 4日	三重県競技力向上対策本部「第3回成年選手強化専門委員会」を開催しました。
11月16日	三重県競技力向上対策本部「第3回企業等連絡調整専門委員会」を開催しました。
11月25日	三重県競技力向上対策本部「第3回ジュニア・少年選手強化専門委員会」を開催しました。

三重県競技力向上対策本部
第5回競技力向上対策委員会の概要

平成27年9月4日

1 開会

2 あいさつ 三重県競技力向上対策本部 競技力向上対策委員長 村木 輝行

3 説明・報告事項

- (1) 役員及び委員の変更
- (2) 三重県競技力向上対策本部 会議等開催経過
- (3) 三重県競技力向上対策本部 第4回競技力向上対策委員会の概要について
- (4) 国民体育大会第36回東海ブロック大会等の結果
- (5) 平成27年度三重県競技力向上対策事業の進捗状況について

4 協議事項

三重県競技力向上対策基本方針における目標及び計画について

1 基本方針における目標及び計画の見直しについて

- (1) 競技スポーツを取り巻く環境の変化への対応
 - ・東京オリンピック決定後、国体の種目や人数の変更があり、協会としても対応に苦慮している。中央競技団体からの情報を収集して、県対策本部の対応をすばやくする必要がる。
- (2) 本県競技力の現状への対応
 - ・目標順位を達成するために必要な、予算、人員を確保してほしい。今年、もし目標を達成できなかったときには、課題をさらに洗い出し、目標達成のために取組を強く進めてほしい。

2 基盤体制づくり期の「取組の柱」における成果と課題について

- ・高校強化指定事業が少年選手の中心的な強化事業として、入賞件数や国体の得点といった数字だけでなく、意識や活動内容のレベルが向上しており、効果はあったと考えられる。

競技力向上の取組の検証について

1 成年選手の競技得点の低下に対応する成年選手の育成・強化の取組について

①大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業

- ・現在、単年度での指定を行っているが、平成33年を見据えるのであれば長期的な指定も必要ではないか。
- ・強化指定されているチームの選手としては気が引き締まるが、県外出身の選手が多いチームになるとあまりその意識が醸成されていない部分もある。チームの努力が必要である。また、移籍も多いのが実態のため、長く在籍していただけるような環境があればよい。

②トップアスリート就職支援事業

- ・(就職支援担当より報告) 現在、県内に本社を置く企業等を中心に今までに約40社を回っている。50年に一度の国体のために前向きに対応していただいている企業もあるものの、職種等のハードルもあることを感じている。
- ・(事務局より報告) どのタイミングで何名のアスリートの就職支援が必要なのかというヒアリングを全競技団体に行った。今後、全体人数等を把握して詳細な計画を再調整したい。
- ・就職支援において企業が必要な選手と、競技団体が必要な選手との相違がある可能性もあるため調整する必要がある。
- ・県外に本社があると調整が必要になるが、国体に貢献できるようにするためにはどのような対応ができるか検討していきたい。

2 選手の育成のための指導者の確保について

①スポーツ指導員配置事業

- ・セーリングでは1名の配置をしているが、トップ選手に直接教わる機会が高校生にあることは非常に効果的である、今後少年の競技力も向上していく傾向にあると考える。他競技でも有効ではないか。

②特別コーチ配置事業

- ・指導者の確保については、教育委員会が教員採用試験の中でスポーツ特別選考の種目を特化して指導者を確保しており、すでに成果が上がっている競技もある。
- ・中学校の指導者の中では国体の意識が低くオール三重の意識を持つことが難しい。小、中、高、クラブチームの指導者の連携をうまくとることが重要である。

3 女性アスリートのサポートについて

①女性スポーツ指導者研修会

- ・中学校現場でも女子選手の指導は非常に難しいと感じる。女性の指導者も少ない状況であり、知識がないために競技力が向上しないという課題があると感じる。

②女性アスリートの相談窓口設置

- ・周知をもっとするべきであり、活用をすすめる必要がある。
- ・強化指定運動部やチームの選手・指導者・保護者だけでなく、県全体の運動部にまで範囲を広げて、市町等と連携した周知をしてはどうか。

③女子選手の発掘・育成

- ・「タレント発掘」事業は結果が出るまでに時間がかかるため、相当の覚悟がいる。JSCとも連携をしてしっかりすすめるのであれば賛成する。平成34年以降の遺産として残していくものであると思う。

第3回ジュニア・少年選手強化専門委員会の概要

平成27年11月25日

第70回国民体育大会結果及び本年度競技力向上対策事業を踏まえた今後の取組について

- 1 入賞の可能性が高い競技や入賞レベルに達してきている競技が、確実に入賞できるようにするための取組について
 - ・三重県の子はおおらかな子が多い。何が何でも勝つという気持ちが少ないように感じる。
 - ・県外との練習試合で他県チームに勝ちきれない状況があり、強化指定事業を活用してシンパシー・ユニオンによるメンタル的な強化にも取り組んだ。
 - ・すべての競技において、小学校の高学年から県外の強い選手と対戦し、精神的な面を鍛えることが必要ではないか。
 - ・高等学校運動部強化指定の成果として、各専門部で強化の流れができ、選手の意識や責任感も向上している。しかし、指導者の戦略マネジメントや実践経験をさらに積む必要がある。
 - ・強化指定により練習試合や合宿などを行えたが、試合前に練習場所が確保できないなどの課題もあった。練習環境の整備も必要である。
- 2 強化指定運動部で成果が認められない運動部を、2～3年後に入賞レベルに引き上げるために必要な支援のあり方について
 - ・強化指定運動部でも、結果を残している高校は、いい選手が集まってきているが、結果が残せていない高校では選手獲得に苦勞している。結果を残すために‘人’が大きなキーワードである。
 - ・指導者が選手に刺激を与え、選手の「スイッチ」が押せるように指導者の育成を考える必要がある。
 - ・セーリングでは、スポーツ指導員がジュニア選手や指導者によい影響を与えていた。より計画的に活用できるよう、体協・県・連盟で協議する必要がある。
 - ・日本一になった人の話を身近に聞ける機会があるとよい。絶えず日本一は当然だと監督自身が思えるよう、まず監督の意識を変える必要がある。
 - ・強化をするうえである程度の選手数が必要であり、トップ選手がケガをした時にも、それを埋めるだけの選手が必要である。
 - ・トップ選手による指導は、少なくとも1年間くらいの継続的な指導が必要であり、長いスパンで考えたい。
- 3 小・中・高・ジュニアクラブの連携のあり方や、チームみえジュニア等の一貫した育成強化体制のあり方について
 - ・中体連では、中学生選手の強化について、中学校強化指定とジュニアクラブ強化指定の棲み分け考えていきたい。
 - ・ジュニア選手の県外流出は、日本のトップ選手になる夢を持ち、その競技でのトップ選手を多く輩出している県外の有力校へ行かせようとする保護者の考え方によるものでもある。

- ・オリンピックに出場するようなトップ選手が指導することによって、日頃の指導にちょっとした変化が生じ、そのような変化が強化するうえで即効性が期待できる。大いに拡充する必要がある。
- ・テニスでは特別コーチを招へいし、選手・指導者を集めて話をしてもらった。世界で活躍する選手を見ることで指導者にとってもいい刺激になり、改めて必要性を感じた。年に4～5回来てもらうことで、指導者の意識も向上すると感じた。
- ・3年前からテニスのステップアップを真似て、ハンドボールもジュニア選手強化を始めた。月に2回、小学5・6年生と中学校の各学年20名程度に絞って、強化指定校で合同練習会に取り組んでいる。
- ・国体のバスケットボールでは、少年種別がU-16になるので、H30インターハイ強化事業の中高連携での活動は有効である。このような事業を何らかの形で継続してほしい。
- ・運動能力に長けている子でスポーツをやっていない子をセレクションし、競技を割り振りするようなタレント発掘をしてはどうか。

4 女子選手の育成・強化を図るための選手や指導者への支援のあり方について

- ・男性の指導者にとって、身体的な面や心理的な面などわからない部分がある。女性の指導者の協力が得られるよう、教員配置である程度配慮してもらえるとありがたい。
- ・女性の指導者がスタッフとして入ったことで、選手への指示や状況把握がしやすくなった。強化指定校にコーチ（講師）を1人つけられるような制度があるとよい。
- ・女性アスリートサポート事業において、相談窓口というよりは、産婦人科の先生を直接派遣していただき、指導者や保護者、選手に直接話していただく制度にしてはどうか。
- ・強化指定校へカウンセラーを派遣するなど、心のケアも必要である。
- ・女性指導者が少ない現状にある。セーリングでは、子どもを育てるお母さん選手のために、国体でチルドレンルームの設置などサポート体制を作っている。
- ・男性の指導者が技術指導に加え、精神的な面まで指導するのは難しい。女性の指導者がいることで、女子選手のあこがれともなる。

第3回成年選手強化専門委員会の概要

平成27年11月4日

第70回国民体育大会に係る成年選手の結果分析及び今後の取組について

1 短期的な成年選手強化の育成・強化の取組について

- ・目標の明確化と事務局体制の充実により、競技団体の意識醸成が図られた。
- ・各競技団体が国体に向けて、全種別を一同に集めた練習会を行うなど、種別を超えたチームワークの形成を図り、「チームみえ」としての意識をさらに高める必要がある。
- ・「特別コーチ派遣事業」はテクニカルコーチに偏っている感がある。今後、接戦を制するため、高いレベルでの指導実績を有する指導者をアドバイザーとし、特別コーチや総監督制を導入するなど指導者をサポートする方法もある。
- ・スポーツ指導員であるトップレベルの選手は国体に貢献するだけでなく、少年の指導面においても効果を現している。一方で、得点できなかった競技もあった。今後はスポーツ指導員の活動を支えるだけでなく、活動の内容について管理していく必要がある。
- ・「スポーツ指導員配置事業」は国体での得点獲得に直結する部分がある。単なる拡充ではなく、「2～4人の競技」の団体種目において、中心選手のパートナー的存在の選手があと一人いれば、得点の可能性が格段に高まる競技などに対して、戦略的に拡充するよう取り組む必要がある。
- ・4年後に新種目となる予定のトランポリン種目など将来を見据えた選手の確保や育成を行いたい。このような競技はスポーツ指導員の対象にはならないか考えてほしい。

2 中・長期的な成年選手の育成・強化について

- ・「大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業」において、強化費の配分だけでなく、担当者が密接に関わっていただいたことも効果があった。指定チームが責任を持って取り組めるようなバランスの取れた強化費の配分が必要である。
- ・5年間で一度も入賞がない競技については強化策をコーディネートする人材の育成が必要である。
- ・本大会に出場できなかった競技団体の国体に対する意識が薄れないよう、代表者が視察に行き、中・長期的な強化策をイメージすることも必要である。そのうえで、強化策について改めて考える必要がある。

- ・「トップ選手強化事業」においては、オリンピックで活躍するような選手を育成することを念頭におくなど本当の意味で強化の柱となる事業にしていく必要がある。
- ・県外で活躍する三重県出身のトップアスリートや強化指定チームに在籍するトップアスリートに対する支援体制や現在トップジュニアで指定されている選手の高校卒業後の活動をフォローするような支援体制作りが必要である。
- ・「トップアスリート就職支援事業」において実際に選手をスカウトするにあたって、対象となる企業の状況やそれに伴う練習環境など選手に対して提示できるよう具体的な情報が欲しい。また、即戦力だけでなく、平成33年に向けて見込みのある選手の雇用についても考えてほしい。

3 女子新種目への対応について

- ・女子選手の強化にあたっては、まずは環境を整えることが何よりも重要である。女子選手がスポーツをやるなら三重県だと思える環境整備が急務であり、県外流出の歯止めにもなればよい。
- ・国体を契機にして何かを残していくためにも女子に特化したタレント発掘に取り組んでいくことは女子のスポーツ振興にもつながり、本県の強みになっていくと考えられる。またタレント発掘事業においては新種目に向いている選手を上手く導いていく必要がある。

第3回企業等連絡調整専門委員会の概要

平成27年11月16日

トップアスリート就職支援事業の計画的な実施について

(1) 今年度の取組を受けての企業・事業所への働きかけについて

- ・県内に本社があり、従業員数が50名以上いる企業は1,000社ほどあるため、それらの企業から就職支援の依頼を行っていく必要がある。そのためには、まずは商工会議所連合会の常議員会において事業説明等をしてみてはどうか。
- ・企業は、選手採用に伴うメリットがほしいため、県のHPやインタビュー時に使用されるバックボード等で積極的かつ継続的に採用企業の宣伝や広報に努め、企業がインセンティブを感じることができるよう取組を行う必要がある。
- ・既にスポーツ選手を採用している企業では、選手採用や育成・強化に係る仕組みができてきているが、スポーツ選手を採用したことがない企業では、それらの仕組みができていないため、理解を得るまでには時間がかかる。事務局は、その点についても企業に誠意をもって説明したうえで、就職支援の依頼を行っていく必要がある。
- ・企業が企業スポーツに求めるものは、①社員の一体感の醸成、②社会貢献、③ブランド力の向上、である。企業が前述の①を強く求めるのであれば、社業や競技活動への取組が他の社員に見えるところで行われないと意味がないため、スポンサーではなく、社員選手としての採用を基本として行うべきである。
- ・本事業を成功させるためには、国民体育大会をゴールとせず、一つのきっかけとしてスポーツ推進を図っていくというスタンスを企業側にも伝えたい。実施する必要がある。そのためには、国民体育大会に向けて職員を臨時的に雇用するのではなく、計画的に正規職員として採用するとともに、採用した選手には適切な支援を行う等、総合的な働きかけが必要である。
- ・企業側への働きかけも重要であるが、大学をうまく巻き込んで成年選手の競技力向上を図っていく必要はある。
- ・県外に本社がある企業についても、関係者等のツテを使って就職支援の依頼を行うことで、可能性は広がるため、積極的に行っていく必要がある。

(2) 来年度以降におけるマッチングについて

- ・スポーツ選手と企業とのマッチングを行うにあたっては、競技団体や事務局がしっかりと人物評価を行い、双方にとっていい人材を見つけることが必要である。
- ・企業としては生産性を高め、競争力に打ち勝たないと生き残れない時代であるため、採用された選手は社業をしっかりと行うことはもちろんであるが、社員の一体感の醸成や明るく元気な職場づくりといった波及効果も期待しているため、そのような人物を推薦していく必要がある。
- ・マッチングを行うにあたっては、企業活動を発展させるとともに、成年選手の競技力向上を担うという両面を兼ね備えた人物を競技団体から推薦をしてもらう必要がある。その点については、事務局がしっかりと競技団体に伝える必要がある。
- ・事務局は、マッチングを行う前に選手や企業が望むことや期待することについての調

査を行い、双方の思いを汲み取っておく必要がある。

- ・マッチングも重要であるが、採用後に選手や企業に対してフォローを入れることも大切である。フォローをしっかりと行うことができれば、両者の不平や不満を抑えることができるため、採用後のフォローはこまめに行う必要がある。
- ・国民体育大会の開催を平成29年に控えている愛媛県では、伊予銀行がテニス競技の選手を正社員として7名、プロ契約選手として1名採用した。正社員の勤務形態は、週三日は午前中の勤務とする等、競技活動に一定の理解を示している。本県としても、どの企業にどの競技を推薦すれば、競技得点につながりやすいのか等、戦略的にマッチングを行う必要がある。
- ・社会人としての教育が必要と感じられる選手については、マッチングを行うまでに競技団体に依頼して指導を行ってもらおう等、対策をとる必要がある。

協議事項の前段で、県内の企業チーム及びクラブチームの状況報告が下記のとおり、ありました。

株式会社デンソー

株式会社デンソーでは、西尾製作所に女子バレーボール部、本社に女子バスケットボール部、安城製作所に女子ソフトボール部、大安製作所に女子陸上長距離部の強化指定部を、基礎研究所に女子ボート部の準強化指定部を有している。

強化指定部は、セミプロのような勤務形態であり、バレーボール部やバスケットボール部、陸上長距離部は週に1～2日程度の午前しか勤務を課していないが、ソフトボール部は業界の慣習もあり、毎日半日の勤務を課している。そのため、ソフトボール部は正規採用が基本となるが、それ以外の等は嘱託職員の比率は高い。

配属先については、一定の配慮をしており、陸上長距離部は全員、事務職に就けている。また、社員選手の人事評価は、すべて標準パターンで評価している。

また、一般職の選手であっても、成績を伸ばしたり、全国的にも活躍するような選手については、夜勤職場を避けたり、残業が少ない職場への配転をしたりしている。

三重バイオレットアイリス

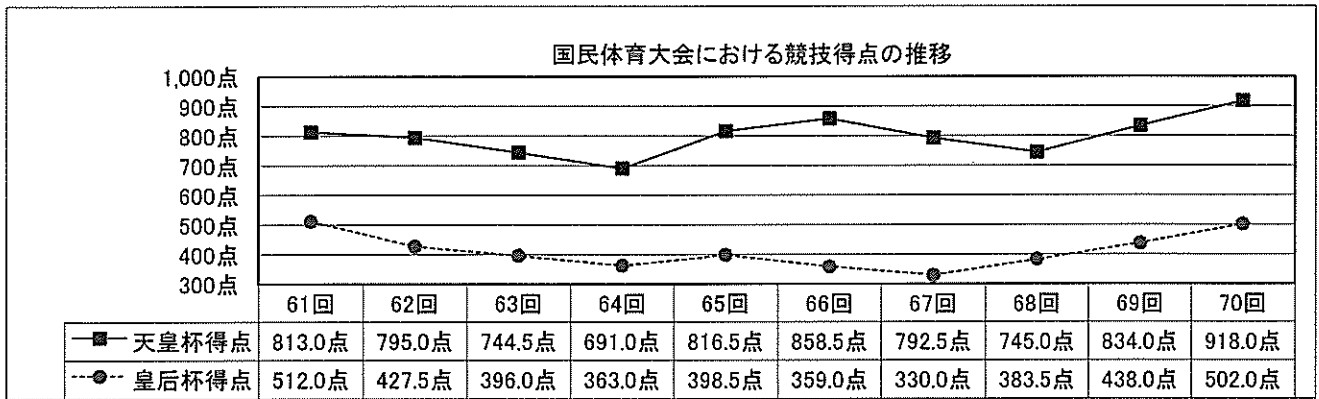
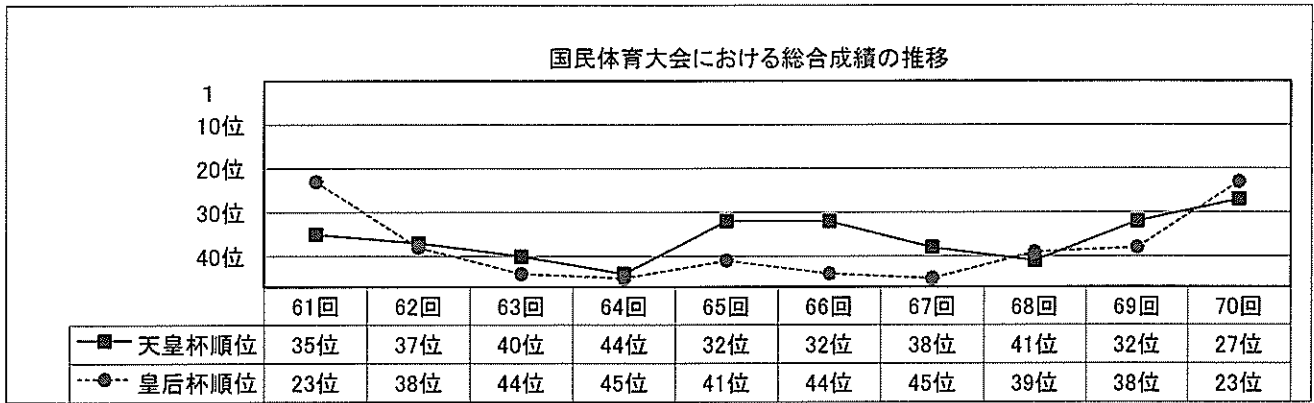
三重バイオレットアイリスでは、鈴鹿市の企業や事業所に選手を採用していただきながら、クラブチームとして活動している。

選手には、基本的に8時間勤務を課しており、正規採用か嘱託採用かは選手と協議を行ったうえで決めている。

企業には、残業を課さないこと、大会や遠征等の関係で年間に15～20日間は離職できることを理解していただいたうえで、採用していただいている。給料としては、高卒者で16万円、大卒者で19万円程度である。

私どものチームにもナショナルチームの選手がいるが、オリンピック出場のための代表活動が盛んなため、それらの選手については、ほとんど勤務できていない状況である。

第70回国民体育大会における総合成績



男女総合成績競技別一覧

競技順位	競技名	競技得点	参加点	合計
2	サッカー	64.0	10.0	74.0
4	ウエイトリフティング	66.0	10.0	76.0
7	ソフトテニス	35.0	10.0	45.0
8	レスリング	32.5	10.0	42.5
11	テニス	18.0	10.0	28.0
12	馬術	28.0	10.0	38.0
12	アーチェリー	15.0	10.0	25.0
13	体操	15.0	10.0	25.0
13	柔道	12.5	10.0	22.5
14	ハンドボール	25.0	10.0	35.0
14	ボウリング	25.0	10.0	35.0
14	自転車競技	14.0	10.0	24.0
14	バスケットボール	12.5	10.0	22.5
15	ゴルフ	6.0	10.0	16.0
17	陸上競技	46.0	10.0	56.0
17	水泳	36.0	10.0	46.0
18	セーリング	10.0	10.0	20.0
18	空手道	7.0	10.0	17.0
19	弓道	24.0	10.0	34.0
20	フェンシング	9.0	10.0	19.0
21	ボクシング	12.5	10.0	22.5
27	ボート	5.0	10.0	15.0
小計	22競技	518.0	220.0	738.0
	他 18 競技		180.0	180.0
	40競技	518.0	400.0	918.0

女子総合成績競技別一覧

競技順位	競技名	競技得点	参加点	合計
1	サッカー	64.0	10.0	74.0
4	ソフトテニス	35.0	10.0	45.0
4	馬術	16.0	10.0	26.0
8	アーチェリー	15.0	10.0	25.0
9	弓道	24.0	10.0	34.0
9	ハンドボール	12.5	10.0	22.5
9	バスケットボール	12.5	10.0	22.5
12	テニス	6.0	10.0	16.0
16	セーリング	4.0	10.0	14.0
17	ボウリング	4.0	10.0	14.0
20	陸上競技	15.0	10.0	25.0
27	水泳	4.0	10.0	14.0
小計	12競技	212.0	120.0	332.0
	他 17 競技		170.0	170.0
	29競技	212.0	290.0	502.0

事業名	柱	取組内容	取組の成果
① ジュニア選手発掘事業	ジュニア・少年選手	水球・飛込・ボート・ボクシング・ボウリング・ホッケーの6競技種目において、スポーツ体験会、育成プログラム、教育プログラムを実施し、新たなジュニア選手を発掘。	体験会427名、育成プログラム135名、教育プログラム48名が参加し、102名が活動を継続(昨年度より74名増)。
② チームみえジュニア育成事業		各競技団体が行う将来有望なジュニア選手の育成活動を支援。(35競技団体)	将来有望な選手を「チームみえジュニア」として強化を行い、強化活動を支援。全中・IH入賞55件(昨年度より6件減)。
③ チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業		将来活躍が期待できるジュニアアスリート622名を「チームみえジュニア」として指定し、知事より指定証を交付。選手や指導者・保護者への研修会を実施。	6月に指定証を交付し、研修会を実施。398名の小中学生、422名の保護者が交付式に参加。将来有望なジュニア選手及び保護者、指導者が一堂に介し、意識が向上。
④ ジュニアクラブ強化指定事業		本年度、全国大会での活躍が期待できる2クラブを強化指定し、強化活動を支援。	全国レベルの中学生大会で入賞5件。
⑤ 中学校運動部強化指定事業		14校14部を強化指定し、合宿や遠征等の強化活動を支援。	全中入賞9件(昨年度より2件減)。東海大会では優勝18件。
⑥ 中学生H30インターハイ強化事業		中学校合同練習会を11競技専門部が実施。	全中入賞9件(昨年度より2件減)。東海大会では優勝18件。
⑦ 高等学校運動部強化指定事業		31校66部を強化指定し、合宿や遠征等の強化活動を支援した。	IH入賞46件、団体少年入賞27件。(昨年より7件減)
⑧ 高校生H30インターハイ強化事業		高校合同練習会を25競技専門部が、中高合同練習会を8競技専門部が実施し県内トップ選手の競技力向上を図った。	IH入賞46件、団体少年入賞27件。(昨年より7件減)
⑨ 高校生トップアスリート研修事業		全国高校総体、団体等の上位入賞した選手・指導者を対象にした研修会(栄養学・メンタルトレーニング等)を2月に実施。	平成33年団体に成年選手として活躍が期待できる選手の意識醸成が進んだ。
⑩ トップジュニア育成事業		世界大会等で活躍するジュニア選手11名を「チームみえスーパージュニア」として指定し、強化活動を支援。	強化活動の支援により、指定選手の国際大会での入賞5件、全国大会での優勝7件の実績につながった。
⑪ チームみえ団体選手強化事業	少年・成年選手共通	和歌山団体20位台、1,000点を目標として、入賞の可能性がある競技団体を指定し、その強化活動を支援。	和歌山団体では62件入賞し、天皇杯順位は27位、皇后杯順位は23位。基盤・体制づくり期の目標としていた20位台を達成した。
⑫ トップ選手強化事業		競技団体が行う年間を通じた強化活動を支援。	団体を中心に年間を通じた計画的な強化活動の充実につながった。
⑬ 女性アスリートサポート事業		研修会の開催及び県産婦人科医会の協力を得て相談窓口を開設。女子新種目のうち2種目の体験会を開催。	研修会を2回、相談窓口を16回開催し、女子アスリート特有の諸課題について調査するとともに、サポートを行った。また、女子新種目の体験会はラグビーフットボール競技、自転車競技の2競技で開催し、選手確保に向けた取り組みを前進させた。
⑭ 大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	成年選手	本年度、全国大会での活躍が期待できる11チームをA強化指定、平成33年の団体に活躍がきる6チームをB強化指定し、強化活動を支援。	和歌山団体では、指定17チームのうち、13チームが本大会に出場し、127.5点を獲得した。(長崎団体では15点)また、デンソー女子陸上競技部が駅伝で3連覇を達成した。
⑮ スポーツ指導員配置事業		ジュニア・少年選手の競技力向上及び指導者の資質向上を図るため、現役のトップアスリートを指導者として配置。(3名:飛込、セーリング、なぎなた)	和歌山団体では、水泳競技(飛込)の成年男子で2種目、セーリング競技の成年男子で1種目、少年女子で1種目の計4種目において入賞を果たした。
⑯ トップアスリート就職支援事業		成年選手の競技力向上を図るため、企業や事業所等に対し、トップアスリートの採用に係る説明を行うとともに、競技団体の強化計画についての調査を実施。	三重とこわか団体の正式競技であるすべての競技団体及び県内の企業や事業所等に対し、トップアスリートの採用依頼を行った結果、多くの企業から賛同が得られ、3名の就職内定を得ることができた。
⑰ チームみえ指導者研修事業	指導者	三重県代表チームを指導する監督、コーチ、スタッフ等を対象に最新の指導理論を習得するための研修会を実施。	国民体育大会の監督、スタッフが指導理論の習得や意識醸成の機会を得て、国民体育大会における目標の共有を進めた。
⑱ 強化指定運動部、チーム指導者研修事業		強化指定した運動部・チームの指導者の資質向上のための研修会を年3回実施。	「チームのマネジメント」をテーマに研修に取組み、計画的なチームづくりへの意識醸成を進めることができた。
⑲ 公認スポーツ指導者養成事業		公認スポーツ指導者資格の取得を促進するための支援。	競技団体の推薦により、17名が資格取得予定。
⑳ 特別コーチ派遣事業		オリンピック選手や優れた指導者を競技団体の強化活動に派遣。(10競技団体)	派遣した競技団体のうち、7競技団体が団体内で入賞。80.5点(スキー含む)獲得。
㉑ 環境整備補助事業	環境整備	競技団体に対して競技力向上に係る備品を整備。(8競技団体)	自転車、ボート、馬術、フェンシング、テニス競技において団体入賞。
㉒ 医・科学サポート事業		競技団体が団体にに向けて実施する強化活動における医・科学の専門家の活用を支援。(7競技団体)	コンディショニングへの意識醸成が図られ、トレーナー等が強化練習や和歌山団体に帯同した。テニス(成女、少男)、ソフトテニス(少女)、陸上競技(全種別)、ハンドボール(少女)、水泳(全種別)、バスケットボール(少女)で入賞。
㉓ みえのアスリート応援・発信事業	しんぶん	県代表選手を紹介する広報誌、寄付金の募集チラシ発行、選手団の統一したポロシャツの作成などを実施。	約11万部の広報誌発行等により県民への競技力向上の取組や選手の活躍のPRが進んだ。

第70回国民体育大会における三重県選手団入賞一覧

団体種目

順位	成 年 の 部	得点	少 年 の 部	得点
1	サッカー (遠的)	女子(伊賀FCノー)		
		成年女子(全三重)		
2			ソフトテニス	少年女子(三重高校)
			ボウリング	少年男子(津田学園高校)
4			アーチェリー	少年女子(四日市四郷高校)
5	ハンドボール	成年男子(全三重)	テニス	少年男子(四日市工業高校)
	自転車 (チームタイム)	男子(全三重)	バスケットボール	少年女子(全三重)
	柔道	成年男子(全三重)	ハンドボール	少年女子(全三重)
6	体操(競技)	成年男子 (相好体操クラブ)		
	フエッショング (ゴエル)	成年男子(全三重)		
	ゴエル (団体)	成年男子(全三重)		
7	テニス	成年女子(全三重)		

個人種目

順位	競技名	種別	種目	氏名	所 属 《ふるさと登録》	得点
1	陸上競技	成年男子	走高跳	衛藤 昂	AGF鈴鹿(株)	8
	陸上競技	少年男子A	ハンマー投	村木 亮太	久居高校	8
	水泳(競泳)	少年男子B	100mバタフライ	阪本 祐也	三重高校	8
	ウエイトリフティング	成年男子	62kg級スナッチ	坂 典泰	四日市工業高校講師	8
	ウエイトリフティング	成年男子	62kg級クリーン&ジャーク	坂 典泰	四日市工業高校講師	8
	ウエイトリフティング	少年男子	62kg級クリーン&ジャーク	小野 平伍	四日市工業高校	8
	ウエイトリフティング	少年男子	85kg級スナッチ	柳川 友章	亀山高校	8
	ウエイトリフティング	少年男子	105kg超級スナッチ	川村 正輝	四日市工業高校	8
	ウエイトリフティング	少年男子	105kg超級クリーン&ジャーク	川村 正輝	四日市工業高校	8
	馬術	成年女子	馬場馬術	奥西 真弓	名張乗馬クラブ	8
馬術	成年女子	自由演技馬場馬術	奥西 真弓	名張乗馬クラブ	8	
2	陸上競技	成年女子	5000m	尾西 美咲	積水化学工業(株)《宇治山田商業高校》	7
	水泳(競泳)	成年男子	100m自由形	荒木 優介	早稲田大学《暁高校》	7
	水泳(競泳)	少年男子B	200m個人メドレー	阪本 祐也	三重高校	7
	ボクシング	少年男子	ウェルター級	村上 仁	久居高校	7
	レスリング	成年男子	グレコローマンスタイル66kg級	川瀬 亮祥	日本体育大学《いなべ総合学園高校》	7
	レスリング	少年男子	グレコローマンスタイル60kg級	成國 大志	いなべ総合学園高校	7
	ウエイトリフティング	少年男子	62kg級スナッチ	小野 平伍	四日市工業高校	7
	ウエイトリフティング	少年男子	85kg級クリーン&ジャーク	柳川 友章	亀山高校	7
	馬術	成年男子	ダービー	中村 勇	北勢ライディングファーム	7
	空手道	成年男子	組手個人重量級	山下 僚也	帝京大学《四日市市立塩浜中学校》	7
3	陸上競技	少年男子B	砲丸投	別所 竜守	松阪商業高校	6
	セーリング	成年男子	レーザー級	南里 研二	三重県体育協会	6
	レスリング	少年男子	フリースタイル66kg級	基山 仁太郎	いなべ総合学園高校	5.5
	レスリング	少年男子	フリースタイル84kg級	横山 凜太郎	いなべ総合学園高校	5.5
	ボクシング	少年男子	ライトウェルター級	山辺 蓮	久居農林高校	5.5
4	陸上競技	成年女子	100m	世古 和	乗馬クラブクレイン《宇治山田商業高校》	5
	水泳(飛込)	成年男子	高飛込	村上 和基	三重県体育協会	5
	ボート	成年男子	シングルスカル	清水 大輔	中部電力(株)	5
	馬術	成年男子	団体総合	中村 勇	北勢ライディングファーム	5
5	レスリング	成年男子	フリースタイル57kg級	藤田 雄大	青山学院大学《いなべ総合学園高校》	2.5
	レスリング	成年男子	グレコローマンスタイル130kg級	河野 隆太	鈴鹿国際大学職員	2.5
	レスリング	少年男子	グレコローマンスタイル55kg級	丸山 正太郎	いなべ総合学園高校	2.5
	セーリング	少年女子	レーザーラジアル級	新田 そら	高田高校	4
	ウエイトリフティング	成年男子	94kg級クリーン&ジャーク	太田 悠斗	九州国際大学《四日市工業高校》	4
6	ボウリング	少年女子	個人	坂倉 凜	津田学園高校	4
	陸上競技	成年男子	100m	諏訪 達郎	中央大学《四日市工業高校》	3
	陸上競技	成年男子	砲丸投	村上 輝	国士舘大学《南伊勢高校校舎》	3
	陸上競技	成年男子	やり投	中西 啄真	大阪体育大学《伊勢工業高校》	3
7	水泳(飛込)	成年男子	飛板飛込	村上 和基	三重県体育協会	3
	陸上競技	少年女子A	ハンマー投	濱田 恵里奈	松阪商業高校	2
	水泳(競泳)	少年男子A	800mリレー	川口・菊池 山本・松下	全三重 (津田学園高校・尾鷲高校・海星高校)	2
8	水泳(競泳)	成年女子	100m自由形	田尾 優里香	日本体育大学《津田学園高校》	2
	水泳(競泳)	少年女子B	100m平泳ぎ	石田 紅葉	津市立一志中学校	2
8	陸上競技	成年女子	やり投	坂倉 杏奈	鹿屋体育大学《四日市四郷高校》	1
	自転車	成年男子	個人ロード・レース	阿曾 圭佑	(株)キナン《暁高校》	1
	自転車	成年男子	1kmタイム・トライアル	血屋 豊	伊勢市役所	1

計

518

審議事項

三重県競技力向上対策基本方針における目標及び計画について

三重県競技力向上対策本部では、平成25年5月に「三重県競技力向上対策基本方針（以下「基本方針」という）」を策定し、平成33年の国民体育大会での天皇杯・皇后杯獲得を目標に、計画的・総合的に取組を進めているところです。この中で、各期間の目標と取組として、平成28年度からの3年間を「育成期」と設定し、国民体育大会男女総合成績10位台、総合得点1,100～1,300点の獲得を目標として取り組むこととしています。このことから、「基盤・体制づくり期」の最終年にあたる平成27年度には、基本方針における各期間の目標と取組（計画）を見直すこととしています。

基本方針における各期間の目標と取組の見直しについて（案）

(1) 競技スポーツを取り巻く環境の変化への対応

東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定して以降、競技スポーツを取りまく環境が大きく変化しています。とりわけ、国民体育大会においては、新たな競技種目が平成28年岩手国体から順次導入されることが決定しています。

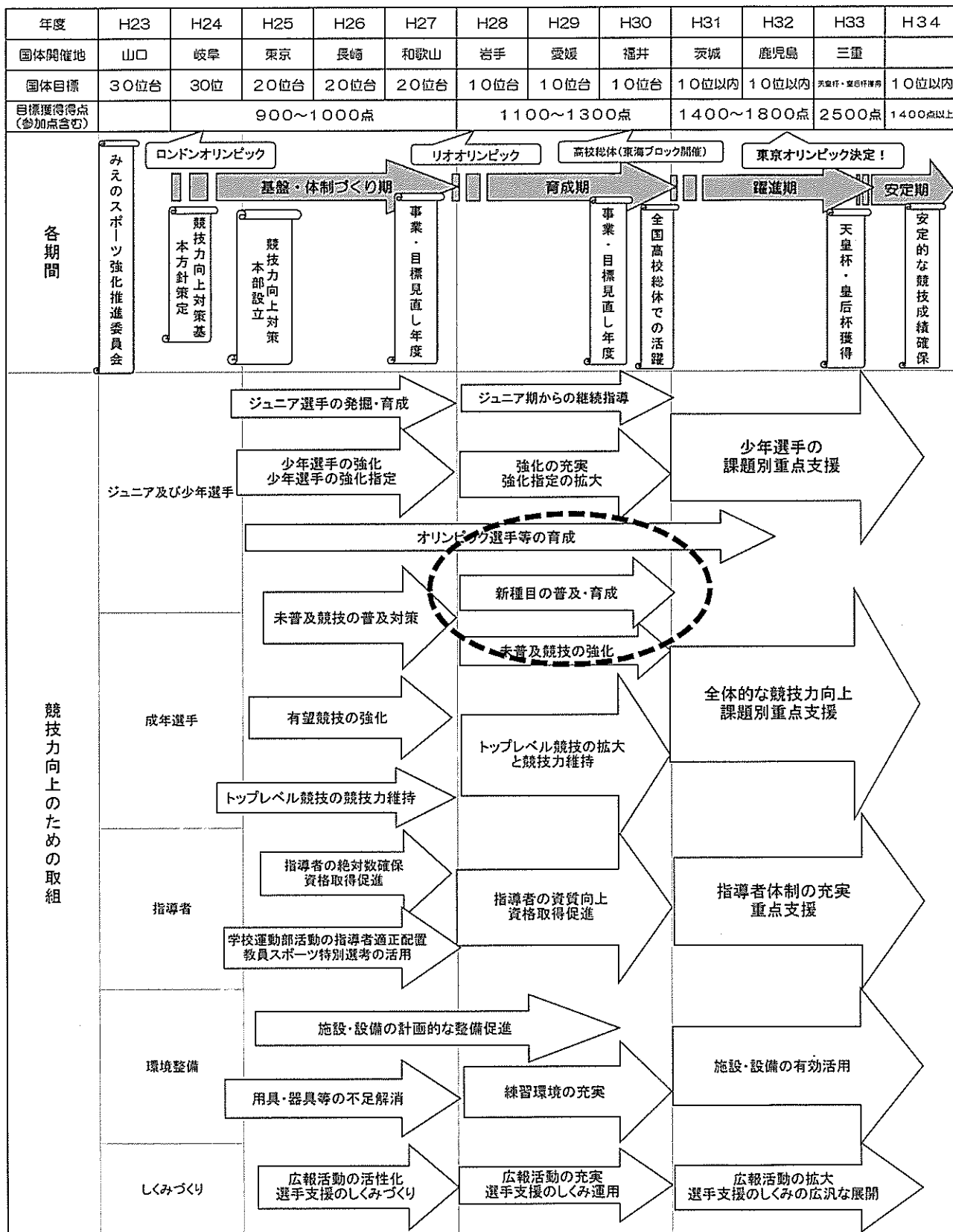
このことから、各期間の目標と取組における「育成期」に、「新たな競技種目の普及及び選手育成」に関する取組を位置づけ、対応することとします。

(2) 本県競技力の現状への対応

平成24年から26年までの国民体育大会における本県の成績は、「三重県競技力向上対策基本方針」に定めた男女総合成績20位台の目標に到達できない状況が続いたものの、平成27年の国民体育大会では男女総合成績27位、女子総合成績23位と目標を達成することができました。また、全国大会（全国中学校体育大会、全国高等学校総合体育大会、国民体育大会）の入賞件数は、平成24年度の96件から平成27年度は117件と増加しており、全国大会で入賞するレベルの選手の育成は進んでいると考えられます。

これらのことから、基本方針における平成33年の国民体育大会での天皇杯・皇后杯獲得に向けての目標順位や獲得得点、競技力向上のための取組は、「新たな競技種目の普及及び選手育成」を加える以外は修正を加えず現行のとおりとし、引き続き、競技力向上に取り組むこととします。

三重県競技力向上対策基本方針における各期間の目標と取組(案)



平成28年度三重県競技力向上対策事業(案)について

平成28年度より育成期として目標を男女総合成績10位台を目指すため、新規事業を2つ加えた下記の24事業を中心として取組を進めていきたい。

	事業名	対象	備考
①	ジュニア選手発掘事業	ジュニア・少年選手	
②	チームみえジュニア育成事業		
③	チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業		
④	ジュニアクラブ強化指定事業		
⑤	中学校運動部強化指定事業		
⑥	中学生H30インターハイ強化事業		
⑦	高等学校運動部強化指定事業		
⑧	高校生H30インターハイ強化事業		
⑨	トップジュニア育成事業		
⑩	チームみえ国体選手強化事業	少年・成年選手共通	
⑪	トップ選手育成支援事業		
⑫	女性アスリートサポート事業		
⑬	女性アスリートタレント発掘事業		H28新規
⑭	大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業	成年選手	
⑮	成年選手強化指定事業		H28新規
⑯	スポーツ指導員配置事業		
⑰	トップアスリート就職支援事業		
⑱	チームみえ指導者研修事業	指導者	
⑲	強化指定運動部、チーム指導者研修事業		
⑳	公認スポーツ指導者養成事業		
㉑	特別コーチ派遣事業		
㉒	環境整備補助事業	環境整備	
㉓	医・科学スタッフ派遣事業		
㉔	みえのアスリート応援・発信事業		

ジュニア選手発掘事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【3,740千円】

1 目的

競技を経験したことのない小・中学生を対象として、競技体験や育成プログラム等を実施することで、新たなジュニア選手を獲得する。

2 実施競技団体

国民体育大会正式競技のうち、6競技団体程度とする。

(1) 継続実施競技（5競技団体）

水球、飛込、ボート、ホッケー、ボウリング

(2) 新規実施競技（1競技団体）

3 実施内容

- (1) 小中学生のうち、事業を実施する競技の未経験者を対象として体験会の参加者を公募する。体験会の開催後は、引き続き選手をめざすための育成プログラムに参加を促しトップアスリートをめざすジュニア選手を発掘する。
- (2) 育成プログラムは、競技練習会として年間10回程度開催し、競技者として育成を図る。参加者は、原則10回すべてに参加する。
- (3) 各競技団体は、中央競技団体による「競技者育成プログラム」を参考に、年間の指導を行う。
- (4) 事業を実施する競技団体は「スポーツ教育プログラム研修会」にジュニア選手、保護者とともに参加し、技術、技能以外に、競技者として必要な知識の習得や保護者サポートについて研修する。
- (5) 実施競技団体は、育成プログラム終了後のジュニア選手育成のため、競技を継続できる環境をジュニア選手に提供する。
- (6) 実施競技団体に対して、競技体験や育成プログラムでの活動を目的とした活動のうち、旅費、消耗品費、施設使用料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要なと認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

- | | |
|-------|---------------------------|
| 5～6月 | 体験会の広報 |
| 7～8月 | 体験会の実施 |
| 9～2月 | 育成プログラムの実施 |
| 11～2月 | スポーツ教育プログラム（競技継続のサポート）の実施 |

チームみえジュニア育成事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【21,752千円】

1 目的

将来有望なジュニア選手（小・中学生）をチームみえジュニアとして育成し、その強化活動を支援し、長期的な競技力の向上を図る。

2 対象

三重県体育協会加盟の国民体育大会正式競技である競技団体とする。

3 実施内容

- (1) 各競技団体が取り組む、将来有望なジュニア選手の育成活動（チームみえジュニア）を支援する。
- (2) 配分については、各競技団体の活動実績に応じて配分される基礎配分と競技実績に応じて配分される競技力配分として配分する。その他、必要に応じてヒアリング等により調整行う。
- (3) 競技団体への配分については、三重県競技力向上対策本部と協議のうえ、委託事業者において行う。
- (4) 各競技団体に対する配分額等の決定後、委託事業者及び対策本部と連携して競技団体への通知及び活動に対する助言を行う。
- (5) チームみえジュニア育成に対して実施する強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要なと認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

- | | |
|------|-----------|
| 4月中旬 | 強化費の配分額決定 |
| 5～3月 | 強化活動支援 |

チームみえジュニア指定、指導者・保護者研修プログラム事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【1,401千円】

1 目的

全国大会等で活躍が期待できるジュニア選手（小・中学生）を「チームみえジュニア」として指定し、ジュニア選手の意識醸成を図るとともに、競技団体、指導者、保護者が一体となって、ジュニア選手の育成・強化を図ることを目的とする。

2 対象

県内競技団体からの推薦を受け、全国大会等で活躍が期待できるジュニア選手とその指導者・保護者とする。

3 実施内容

(1) 指定証の交付

指定するジュニア選手に対し、三重県競技力向上対策本部長（知事）から、「チームみえジュニア指定証」を交付する。

(2) 研修プログラム

① 全体会

・「チームみえジュニア」としての意識醸成を目的とした研修。

② 研修会

[ジュニア選手・保護者対象]

・選手間の交流を図るとともに、本県を代表する選手としての自覚を促すプログラムを実施する。

[指導者対象]

・競技の枠を越えて交流し、ジュニア選手のサポート体制の充実を図るプログラムを実施する。

4 年間計画

6～7月 「チームみえジュニア指定証」交付式、研修会の開催

ジュニアクラブ強化指定事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【1,878千円】

1 目的

平成33年の「三重とこわか国体」において、少年種別の中心となる中学生選手の育成・強化を目指し、その強化活動を支援することで、中学生選手の長期的な競技力の向上を図る。

2 対象

国民体育大会の正式競技及び平成28年度に新たに正式競技となる競技の県内のジュニアクラブとする。

3 実施内容

(1) 指定期間

指定日から平成29年3月までの単年度指定とする。

(2) 指定方法

三重県体育協会加盟の競技団体は、平成33年の「三重とこわか国体」に向けた強化を図っているジュニアクラブのうち、平成28年度の全国大会において、中学生選手の活躍が期待できるジュニアクラブを推薦することとする。

三重県競技力向上対策本部は、推薦を受けたジュニアクラブを選考し、指定する。

※ 推薦を受けたジュニアクラブにおいても、活動状況・活動人数等の実態が十分でないと思われる場合は、指定を行わないこともある。

(3) 補助対象

強化指定ジュニアクラブに対しては、全国大会での活躍を目的とした中学生選手の強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

3月下旬	強化指定クラブ選定、指定決定
5～3月	強化活動支援

ジュニアクラブ強化指定推薦要領（案）

三重県体育協会加盟の競技団体（以下「県競技団体」という。）は、本推薦要領に基づき、三重県競技力向上対策本部に強化指定ジュニアクラブを推薦することとする。

1 推薦できるジュニアクラブの範囲

平成33年の「三重とこわか国体」に向けて、県内で定期的に活動する中学生選手が所属するクラブのうち、平成28年度に全国大会で入賞するなどの期待ができるクラブ等とする。

※県競技団体が、中学生選手を育成しているジュニアクラブとして活動を認めているクラブに限る。

※複数の拠点（教室・道場・支部等）で活動しているクラブでも、推薦が行えるのは1拠点とする。

2 推薦基準及び手順

ジュニアクラブのうち、中学生選手が3名以上所属しており、過去3年間の全国大会において入賞の実績があるクラブについて、平成28年度に最も活躍が期待できる1クラブを推薦することとする。

※所属選手、入賞選手の性別は男女を問わない。

※全国大会とは、中央競技団体が主催する大会とする。

平成28年度 ジュニアクラブ強化指定(案)

競技名	ジュニアクラブ名
水泳(競技)	津田スイミングスクール四日市校
水泳(水球)	三重ウォーターポロスターズ
水泳(飛込)	三重ダイビングクラブ
ボクシング	四日市ボクシングジム
体操(競技)	相好体操クラブ
レスリング	一志ジュニアレスリング教室
ウエイトリフティング	みえウエイトリフティングジュニアクラブ
卓球	松生TTC
フェンシング	鳥羽フェンシングクラブ

9クラブ

中学校運動部強化指定事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【3,010千円】

1 目的

平成33年の「三重とこわか国体」で少年種別の中心となる中学生選手の育成・強化を目指し、その強化活動を支援することで、中学生選手の長期的な競技力向上を図る。また、高等学校運動部との連携を促し、ジュニア・少年選手の強化を行う。

2 対象

三重県中学校体育連盟（以下「県中体連」という。）加盟の競技専門部に所属する中学校運動部、または、三重県体育協会加盟の競技団体に所属する中学校運動部を対象とする。

3 実施内容

(1) 指定期間

平成28年4月から平成29年3月までの単年度指定とする。

(2) 指定方法

三重県競技力向上対策本部は、県中体連の推薦を受けた強化指定候補運動部について、三重県教育委員会と協議をしたうえで選考し、指定を行う。

※県中体連に専門部がない中学校運動部については、三重県体育協会加盟の競技団体より三重県競技力向上対策本部に推薦ができる。

※推薦を受けた強化指定候補運動部においても、活動状況・活動人数等の実態が十分でないとは認められる場合は、指定を行わないことがある。

※県中体連から推薦を受けた以外に全国大会において活躍が期待できる運動部がある場合は、三重県教育委員会、県中体連と協議のうえ指定することができる。

(3) 補助対象

強化指定運動部に対して、全国大会等での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

3月下旬	強化指定運動部の決定
4月	指定証交付式
4月～3月	強化活動の支援

中学校運動部強化指定事業強化指定候補運動部推薦要領（案）

三重県中学校体育連盟（以下「県中体連」という。）および三重県体育協会加盟の競技団体（以下「県競技団体」という。）は本推薦要領に基づき、三重県競技力向上対策本部に中学校強化指定候補運動部を推薦することとする。

1 対象

県中体連に加盟する競技専門部、または県競技団体に所属する中学校運動部

2 推薦基準

平成33年の「三重とこわか国体」に向けて、中学生選手の育成・強化を図るとともに、平成28年度の全国中学校体育大会等において、最も活躍が期待できる中学校運動部とする。

3 推薦方法

- (1) 県中体連の各競技専門部は、推薦基準に基づき、県競技団体および該当中学校長と十分協議のうえ、中学校運動部を県中体連に推薦する。
- (2) 推薦する中学校運動部は、原則として男子、女子で区別し、いずれか1部とする。ただし、同じ中学校において男女共同で活動している運動部については、男女を区別することなくひとつの運動部とする。
- (3) 全国中学校体育大会等で特に活躍が期待できる競技においては、活動の実態に応じて、男女それぞれ1部ずつを推薦することができる。

【強化指定推薦競技の考え方】

平成28年度に、中学校運動部として十分な活動状況・活動人数等が確保できる運動部であり、次の条件に該当する競技とする。

①平成28年度国民体育大会での正式競技となる競技

②平成28年度全国中学校体育大会等での活躍が期待できる競技で、過去3年間において、全国大会入賞または東海大会優勝の実績がある競技

※男子部・女子部・男女部での推薦については実態に応じて行うこととする。

※リレーについては個人種目として取り扱う。

※全国中学校体育大会が実施されない競技については、同時期に開催される全国規模の大会を同等の大会とみなすこととする。

※同一競技で男子、女子を区別して推薦する場合は、男子部、女子部それぞれで活動し、過去3年間で男子、女子ともに全国大会の入賞実績があることとする。

※推薦を受けた強化指定運動部においても、活動状況・活動人数等の実態が十分でないとは認められる場合は、指定を行わない場合がある。

平成28年度 中学校強化指定運動部(案)

競技名	男子	女子
バレーボール	伊賀市立大山田中学校	-
卓 球	-	-
柔 道	-	四日市市立三滝中学校
バスケットボール	-	四日市市立朝明中学校
サッカー	-	-
ハンドボール	四日市市立羽津中学校	四日市市立西笹川中学校
ソフトボール	-	度会町立度会中学校
軟式野球	松阪市立久保中学校	-
ソフトテニス	-	紀宝町立矢漕中学校
剣 道	-	四日市市立西朝明中学校
体操競技	-	-
新 体 操	-	-
バドミントン	-	伊勢市立倉田山中学校
相 撲	志摩市立磯部中学校	-
水泳競技	-	-
テ ニ ス	桑名市立光陵中学校	-
陸上競技	多気町松阪市学校組合立多気中学校	

13校13部

中学生H30インターハイ強化事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【2,072千円】

1 目的

平成30年度全国高等学校総合体育大会に向け、本県の高等学校運動部の活躍につながる中学校運動部の強化を目的とし、県内トップレベルの中学校運動部の強化を図る。

2 対象

三重県中学校体育連盟加盟の競技専門部（以下「競技専門部」という。）または、競技専門部がない中学校運動部のうち、本事業を複数の運動部によって合同で実施する中学校運動部（以下「中学校運動部」という。）

3 実施内容

(1) 中学校合同強化練習会（6競技専門部程度）

競技専門部および中学校運動部の指導者及び県内ベスト4レベルのチーム等を対象として、強化練習会を開催する。強化練習会には、全国トップレベルのチーム及び指導者を招へいすることができる。

(2) 補助対象

競技専門部および中学校運動部に対して、全国大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

(3) 実施競技専門部の決定

実施する競技の決定については、委託事業者と三重県競技力向上対策本部の協議のうえ選定・実施を行う。

4 年間計画

4月～5月	実施競技専門部決定
5月～3月	合同強化練習会実施

高等学校運動部強化指定事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【23,565千円】

1 目的

平成30年の全国高等学校総合体育大会、平成33年の「三重とこわか国体」などの全国・国際スポーツ競技大会において活躍するトップアスリートの育成を目指して、育成・強化の中心となることが期待できる高等学校運動部を指定し、強化活動を支援することで、高校生アスリートの競技力向上を図ることを目的とする。

2 対象

次のいずれかに該当する高等学校運動部を対象とする。

- (1) 国民体育大会の正式競技であり、三重県高等学校体育連盟（以下「県高体連」という。）に加盟する競技専門部、または三重県体育協会に加盟する競技団体（以下「県競技団体」という。）に所属する高等学校運動部
- (2) 三重県高等学校野球連盟（以下「県高野連」という。）に所属する高等学校硬式野球部

3 実施内容

(1) 指定期間

①指定期間は、三重県競技力向上対策基本方針に基づき、次の3期とする。

- ・第1期：平成26年度～平成27年度（基盤・体制づくり期）
- ・第2期：平成28年度～平成30年度（育成期）
- ・第3期：平成31年度～平成33年度（躍進期）

②指定を受けた高等学校運動部は、原則として、各期の最終年度まで継続して指定し、各期の最終年度に、見直すこととする。

③指定期間内であっても、三重県競技力向上対策本部（以下「対策本部」という。）が必要と認めた場合は、指定する高等学校運動部の追加、または指定の取り消しを行うことがある。

④硬式野球競技については、単年度の指定とする。

(2) 指定方法

対策本部は、県高体連、または県高体連に競技専門部がない競技については、県競技団体から推薦を受けた高等学校運動部を指定候補として、三重県教育委員会（以下「県教委」という。）と協議したうえで、次のように指定する。

①指定候補について、活動状況や直近3年間の競技実績、指定期間中の全国大会における入賞の見込等を踏まえて、下記のとおり区分して指定する。また、この指定区分は、年度ごとに見直すこととする。

- ・S強化指定運動部：全国大会において、上位入賞が期待できる運動部
- ・A強化指定運動部：全国大会において、入賞が期待できる運動部
- ・B強化指定運動部：全国大会において、将来、活躍が期待できる運動部

なお、指定候補であっても、活動状況や大会における実績等から、この方針の目的に合致しないと判断する場合は、指定しないことがある。

②指定候補以外でも、この方針の目的に合致すると認められる高等学校運動部を県高体連等と協議のうえ、指定することができる。

なお、硬式野球競技については、県高野連から、平成28年度に全国大会において活躍が期待できる高等学校硬式野球部の推薦を受け、対策本部が県教委と協議したうえで、「高等学校硬式野球特別指定運動部」として指定する。

(3) 補助対象

強化指定運動部に対して、全国大会等での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

- | | |
|-------|------------|
| 3月下旬 | 強化指定運動部の決定 |
| 4月 | 指定証交付式 |
| 4月～3月 | 強化活動の支援 |

高等学校運動部強化指定事業強化指定候補運動部推薦要領（案）

1 対象

下記のいずれかに該当する高等学校運動部を対象とする。

- (1) 国民体育大会の正式競技で、三重県高等学校体育連盟（以下「県高体連」という。）に加盟する競技専門部、または三重県体育協会に加盟する競技団体（以下「県競技団体」という。）に所属する高等学校運動部
- (2) 三重県高等学校野球連盟（以下「県高野連」という。）に所属する高等学校硬式野球部

2 推薦基準

- (1) 平成30年の全国高等学校総合体育大会、及び平成33年の「三重とこわか国体」に向けて、少年種別における強化の中心となることが期待される高等学校運動部であること。
- (2) 硬式野球競技については、平成28年度に全国大会において活躍が期待できる高等学校硬式野球部であること。

3 推薦方法

- (1) 県高体連の各競技専門部は、推薦基準、に基づき、県競技団体と十分協議のうえ、高等学校運動部を県高体連に推薦する。
- (2) 県高体連は、各競技専門部の推薦を取りまとめ、三重県競技力向上対策本部（以下「対策本部」という。）に推薦する。
- (3) 県高体連に競技専門部がない競技については、県競技団体が推薦基準に基づき、対策本部に推薦する。
- (4) 推薦する高等学校運動部は、原則として、男子、女子で区別し、それぞれで1部とする。
ただし、同じ高等学校で男子、女子ともに推薦基準を満たし、かつ、男女合同で活動している運動部については、男女を区別することなく、ひとつの運動部として推薦することができる。
- (5) 硬式野球競技については、県高野連が1部を上限に、対策本部に推薦する。

	競技名	強化指定運動部	
		男子	女子
1	陸上競技	宇治山田商業(男女)	
		四日市工業	松阪商業
	陸上競技(駅伝)	久居	-
2	水泳(競泳)	伊賀白鳳	
		四日市商業	
		津田学園(男女)	
		尾鷲	-
3	水泳(飛込)	-	-
		四日市中央工業	-
		稲生	-
		-	-
4	水泳(水球)	-	-
		四日市中央工業	-
		稲生	-
		-	-
5	水泳(シンクロイストスイミング)	-	-
		四日市中央工業	-
		四日市工業	三重
		四日市工業	四日市商業
6	ボート	津	-
7	ホッケー	白子	-
8	ボクシング	久居	明野
		松阪工業	津商業
9	バレーボール	-	三重
		暁(男女)	
10	体操(競技)	-	名張
		暁(男女)	
11	体操(新体操)	-	名張
12	バスケットボール	四日市工業	四日市商業
13	レスリング	いなべ総合学園	-
		朝明	-
14	セーリング	津工業	-
15	ウエイトリフティング	四日市工業	亀山
		四日市中央工業	-
16	ハンドボール	四日市工業	四日市商業
17	自転車	朝明	-
18	ソフトテニス	三重	三重
19	卓球	高田	白子
20	軟式野球	高田	-
21	相撲	宇治山田商業	-
22	馬術	高田	
23	フェンシング	海星	津東
24	柔道	四日市中央工業	名張
		四日市工業	伊勢学園
25	ソフトボール	-	津商業
		皇学館	暁
26	バドミントン	松阪工業	伊勢学園
27	弓道	久居(男女)	
28	ライフル射撃	三重	鈴鹿
29	剣道	朝明	朝明
30	ラグビーフットボール	-	-
31	山岳	-	-
32	カヌー	桑名西	-
33	アーチェリー	四日市四郷(男女)	
34	空手道	-	-
35	銃剣道	皇学館	-
36	クレー射撃	-	-
37	なぎなた	-	稲生
38	ボウリング	津田学園	-
39	ゴルフ	津田学園(男女)	
		三重	-
40	スケート	-	-
41	アイスホッケー	-	-
42	スキー	-	-
43	硬式野球	海星	-

高校生H30インターハイ強化事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【9,500千円】

1 目的

平成30年度全国高等学校総合体育大会に向け、本県選手及び高等学校運動部の活躍を目的として、県内のトップレベルの高等学校運動部及び選手の強化並びに、県内中学校と連携した選手育成を行う。

2 対象

全国高等学校総合体育大会及び国民体育大会の正式競技である三重県高等学校体育連盟所属の競技専門部（以下「競技専門部」という。）

3 実施内容

(1) 高等学校合同強化練習会（20競技専門部程度）

競技専門部の指導者及び県内ベスト4レベルのチーム等を対象として強化練習会を開催する。

強化練習会には、全国トップレベルのチーム及び指導者を招へいすることができる。

(2) 中学校・高等学校合同練習会（10競技専門部程度）

県内でトップレベルの中学生選手と、県内トップレベルの高校生選手との合同練習会を開催する。

(3) 補助対象

競技専門部に対して、全国大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、消耗品費、施設使用料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

(4) 実施競技専門部の決定

実施する競技専門部の決定については、委託事業者が三重県競技力向上対策本部と協議のうえ選定・実施を行う。

4 年間計画

4月	実施競技専門部決定
4月～3月	強化練習会、合同練習会実施

トップジュニア育成事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【3,000千円】

1 目的

県民の皆さんからの寄附金を財源として、全国大会等で優秀な成績を収め、将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模大会での活躍が期待されるジュニア選手を対象に、強化活動を支援することにより、選手の育成・強化を図る。

2 対象

将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模大会での活躍が期待される本県の中学生及び高校生とする。

3 実施内容

(1) 強化選手の指定

三重県競技力向上対策本部長（知事）は、競技団体の推薦を受けて、将来、国民体育大会やオリンピック等の大規模大会での活躍が期待される本県の中学生及び高校生を強化指定する。

(2) 補助対象

強化指定選手に対しては、全国大会等での活躍を目的とした強化活動のうち、県外遠征等の旅費、宿泊費、消耗品費、使用料及び賃借料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が強化活動に必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

4月から随時	寄附金の募
5月	第1次強化指定選手の推薦・選定
6月上旬	第1次強化指定選手の決定
9月	第2次強化指定選手の推薦・選定
10月上旬	第2次強化指定選手の決定

トップジュニア育成事業に係る「チームみえスーパージュニア」指定候補
選手推薦要領（案）

1 対象

国民体育大会やオリンピックの正式種目で、国内外の大規模な大会で活躍が期待できる県内中学校および高等学校に在籍する選手とする。

2 推薦基準

全国大会で優秀な成績を収め、今後も全国大会や国際大会などの大規模な大会において活躍が期待され、次の基準を満たしている選手とする。

- (1) 平成27年度もしくは28年度の全国大会*¹で優勝、または、平成27年度の国際大会*²で3位入賞以上の実績があり、平成28年度に日本代表として国際大会*²への出場が決定（内定）している。
- (2) 団体競技にあっては、平成28年度に日本代表として、国際大会*²に出場するなど、顕著な活躍が見られる選手も対象とする。
- (3) この他、平成28年度に特に顕著な実績を収めた選手がいる場合は、三重県競技力向上対策本部が別途指定する。

- | | | |
|-----|------|---|
| * 1 | 全国大会 | ① 国民体育大会
② 全国中学校体育大会、ジュニアオリンピック
③ 全国高等学校総合体育大会、全国高等学校選抜選手権大会
④ ①・②・③と同じ競技レベルと認められる大会 |
| * 2 | 国際大会 | ① 世界ジュニア・ユース大会、アジアジュニア・ユース大会
② ①と同じ競技レベルと認められる大会 |

3 推薦方法

- (1) 各競技団体は、上記2の推薦基準を満たすと判断できる場合、三重県競技力向上対策本部に対象となる選手を推薦することができる。
- (2) 県内に競技団体がないオリンピック正式種目のうち、上記2の推薦基準を満たすと判断できる場合は、所属する団体（クラブチーム等）より、三重県競技力向上対策本部に推薦することができる。

4 その他

指定選手の選考については、各競技団体等の推薦があった選手をもとに、競技実績・活動状況等により、三重県競技力向上対策委員会で行う。

チームみえ国体選手強化事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【74,590千円】

1 目的

平成28年「岩手国体」において男女総合成績10位台の獲得と総合得点1100点をめざすため、活躍が期待できる本県代表選手（チームみえ）に対し、重点的な強化に取り組む。

2 対象

三重県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会の正式競技である競技団体とする。

3 実施内容

- (1) 各競技団体における第71回岩手国体分析シートを基に、種別ごとに区分を行う。
- (2) A・B群に区分された競技種別に対しては、重点的に強化費を配分し、競技団体が実施する国民体育大会に向けた強化活動を支援する。
- (3) 支援期間は一年間とするが、各競技団体は、平成28年「岩手国体」で成果があげられるよう、本大会に重点を置いた強化活動を進めることとする。
- (4) 平成28年度に開催される国民体育大会東海ブロック大会、本大会、各種全国大会の結果等により、随時、追加配分を行う。
- (5) 支援する経費は、旅費、宿泊費、消耗品費、使用料及び賃借料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費とする。

4 年間計画

4月上旬に当初配分を行い、国民体育大会東海ブロック大会後、本大会後に追加配分を行う。

※ 区分について

	区分の目安	取組
A群	安定して得点しており、平成33年まで引き続き得点が見込め、さらに上位入賞を狙うことができる競技、種別。	さらに上位入賞を狙うために必要な取組を行います。
B群	国体で入賞レベルに達してきており、平成28年岩手国体で入賞を狙うことができる競技、種別。	確実に入賞するために必要な取組を行います。
C群	本国体で入賞実績を有することもあるが、2～3年先に確実に入賞できるレベルに到達することを狙う競技、種別。	中長期の計画的な取組を行います。
D群	強化体制の整備を必要としており、主体的な強化に取り組めるようにする必要がある競技、種別。	主体的に強化が図れるよう、自立にむけた取組を行います。

トップ選手育成支援事業 実施方針(案)

平成28年度当初予算【18,208千円】

1 目的

育成期において、各競技団体の年間を通じた選手強化や普及活動等を支援し、全国大会入賞レベル相当の競技力獲得及び競技普及を図る。

2 対象

三重県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会の正式競技である競技団体とする。

3 実施内容

- (1) 各競技団体における第71回岩手国体分析シートを基に、種別ごとに区分を行う。
- (2) C・D群に区分された競技種別に対し、基盤体制づくり期における強化活動の実績、今年度の目標、今後の強化計画と年度目標、国民体育大会エントリー数など、総合的に判断し、競技団体に一括して行う。
- (3) 支援期間は一年間とし、各競技団体の平成28年「岩手国体」に向けた強化活動及び年間を通じて取り組む計画的な強化及び普及活動を支援する。
- (4) 支援する経費は、旅費、宿泊費、消耗品費、使用料及び賃借料、大会参加料、外部指導者等の招聘に係る報償費等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が事業の実施に必要と認めた経費とする。

4 年間計画

4月上旬に配分を行う。

※区分について

	評価の目安	取組
A群	安定して得点しており、平成33年まで引き続き得点が見込め、さらに上位入賞を狙うことができる競技、種別。	さらに上位入賞を狙うために必要な取組を支援します。
B群	国体で入賞レベルに達してきており、平成28年岩手国体で入賞を狙うことができる競技、種別。	確実に入賞するために必要な取組を支援します。
C群	本国体で入賞実績を有することもあるが、2～3年先に確実に入賞できるレベルに到達することを狙う競技、種別。	中長期の計画的な取組を支援します。
D群	未成熟で強化体制の整備を必要としており、主体的な強化に取り組めるようにする必要がある競技、種別。	主体的に強化が図れるよう、自立にむけた取組を支援します。

女性アスリートサポート事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【1,395千円】

1 目的

女性アスリートが競技を継続して取り組めるよう、女性アスリートの抱える諸課題について実態を把握し、指導者の知識習得や意識向上を図るとともに、サポート体制の構築を図る。

2 対象

三重県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会の正式競技である競技団体およびその団体に所属する女性アスリート、指導者等とする。（新たに正式競技として導入される競技を含む）

3 実施内容

- (1) 女性アスリート及び指導者の研修会を開催し、女性アスリートが抱える諸課題について実態を把握するとともに、継続して競技に取り組むための調査・研究を行う。
- (2) 三重県産婦人科医会など関係団体と連携し、女性アスリートが抱える諸課題について実態を把握するとともに、助言を行えるよう相談窓口の設置や専門家の派遣によりサポートを図る。

4 年間計画

5月～3月	相談窓口の開設、専門家の派遣
8月～9月	女性アスリートの指導に関する研修会実施
(年間)	女性アスリートのサポート等に係る調査・研究及び情報提供

女性アスリートタレント発掘事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【6,002千円】

1 目的

優れた資質あるジュニア世代の女子タレントの発掘を行い、教育プログラムや専門プログラム等を実施することで、ワールドクラスの競技力を獲得し、将来国民体育大会をはじめ国際大会で活躍するとともに、その経験を生かし、確固たる考え方、行動力を持ったリーダーの育成を図ることを目的とする。

2 対象（競技）

第71回岩手国体以降の女子種別において、新たに正式種目になる競技のうちの1競技とする。

3 実施内容

- (1) 三重県競技力向上対策本部が日本スポーツ振興センター（JSC）、中央競技団体（NF）、県競技団体（PF）、高等教育機関等と連携して運営委員会、並びにタレントの選考に係る選考委員会、各種プログラム内容の検討を行うプログラム委員会を立ち上げる。
- (2) 運営委員会にて事業内容、計画等の決定を行う。
- (3) 選考委員会にてオーディションの実施内容、タレントの選考を行う。
- (4) プログラム委員会にてタレントに対して実施する内容の検討を行う。
- (5) 実施競技団体は事務局と連携し、主体的に事業を実施する。

4 年間計画

- | | |
|-------|-----------------------------|
| 5月 | 各種委員会の設立、オーディション、プログラムの内容検討 |
| 8月以降 | オーディション実施 |
| 12月 | 指定証交付式 |
| 12月以降 | プログラム開始 |

大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【13,008千円】

1 目的

平成33年の「三重とこわか国体」において、天皇杯・皇后杯の獲得を目指すため、平成33年に各競技の成年種別で中心となり、且つ第71回以降の国民体育大会で活躍が期待されるチームの指定を行い、成年選手の重点的な競技力向上を図る。

2 対象

国民体育大会の正式競技で次の（１）、（２）のどちらかに該当する大学運動部、企業・クラブチーム等とする。

（１）第71回以降の国民体育大会において当該クラブまたは所属選手の活躍により、入賞が期待できるチーム。

（２）国民体育大会（東海ブロック大会を含む）に出場できていない成年種別において、前年度に新たにチーム結成を行い、三重県代表として出場するチーム。

※チームの概念

- ・団体競技（チームスポーツ）は、国民体育大会のエントリー数の半数以上を占めているチーム。
- ・団体競技（チームスポーツを除く）は、団体チームとして全国大会に出場しているチーム。
- ・個人競技は、複数の選手が在籍するチーム。

3 実施内容

（１）指定期間

平成28年4月から平成29年3月までの期間とする。

（２）指定方法

強化指定チームは三重県競技力向上対策本部が所属競技団体と協議を行い選出する。選出されたチームについては、三重県競技力向上対策委員会において検討・決定する。

【A強化指定】

過去3年間における国民体育大会において団体競技は上位入賞、または複数回の入賞、または個人競技は複数名による複数回の入賞があり、第71回国民体育大会において活躍が期待できるチーム。

【B強化指定】

過去3年間における国民体育大会、または全日本選手権大会、全日本大学選手権大会等において入賞の実績がある、または、第71回国民体育大会において活躍が期待できるチーム。

【C強化指定】

過去3年間における国民体育大会（東海ブロック大会も含む）、または全日本選手権大会、全日本大学選手権大会等に出場し、平成33年の「三重とこわか国体」に向けた競技力向上の中心となることが期待できるチーム。

【特別指定1】

全国大会において連覇などの特に優れた実績があり、本県のスポーツ振興に大きく貢献するチーム。

【特別指定2】

2の(2)に該当するチーム。

(3) 補助対象

指定されたチームには、全国大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、指導者の報償費、施設使用料、強化練習の一貫として参加する大会参加料、消耗品費、医科学スタッフ、技術指導スタッフ等の経費及び三重県競技力向上対策本部事務局が必要と認めた経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

5月	指定証交付
随時	強化活動支援

平成28年度大学運動部、企業・クラブチーム強化指定事業に係る強化指定候補チーム（案）

【A強化指定】

	チーム名	競技名
1	伊賀FCくノ一	サッカー
2	相好体操クラブ	体操
3	北勢ライディングファーム	馬術

【B強化指定】

	チーム名	競技名
4	三重バイオレットアイリス	ハンドボール
5	NTN陸上競技部	陸上競技
6	エクセディ卓球部	卓球
7	三重県警察（柔道）	柔道
8	AGF陸上競技部	陸上競技
9	名張乗馬クラブ	馬術
10	三重県警察（射撃）	射撃
11	PEARLS	ラグビーフットボール

【C強化指定】

	チーム名	競技名
12	三重県警察（剣道）	剣道
13	クレイン東海	馬術
14	皇學館大学（柔道）	柔道
15	株式会社安永弓道部	弓道

【特別指定1】

	チーム名	競技名
16	デンソー女子陸上長距離部	陸上競技

成年選手強化指定事業 実施方針（案）

平成28年度予算【1,500千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートを強化指定し、合宿や強化練習等の支援を行うことで、本県への帰属意識を高めるとともに、平成33年の「三重とこわか国体」に向けた成年選手の競技力向上を計画的に推進することを目的とする。

2 対象

平成33年の「三重とこわか国体」における正式競技に取り組んでいる大学生及び社会人で、次に掲げる条件を満たす者とする。

- ① 「チームみえ」の一員として、平成33年の「三重とこわか国体」での活躍が特に期待される者
- ② 東京オリンピック競技大会や世界選手権大会での活躍が期待される者

ただし、東京オリンピック競技大会の正式競技以外の競技に取り組んでいる選手については、条件①のみを満たすこととする。

3 実施内容

- (1) 強化指定選手の決定については、別途定める「成年選手強化指定事業 選考要領」において、三重県競技力向上対策本部が行う。
- (2) 指定期間については、平成28年4月から平成29年3月までの単年度指定とする。
- (3) 補助対象については、全国・国際スポーツ大会での活躍を目的とした強化活動のうち、旅費、宿泊費、施設使用料、強化練習の一貫として参加する大会参加料、消耗品費、医科学スタッフ、技術指導スタッフ等の経費の支援を予算の範囲内で行う。

4 年間計画

- | | |
|-----|---------------|
| 4月 | 強化指定選手の選考及び決定 |
| 随時 | 強化活動支援 |
| 10月 | 第71回国民体育大会出場 |

スポーツ指導員配置事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【18,933千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートを学校運動部活動等の指導現場に派遣することで、ジュニア・少年選手の競技力向上を図るとともに、現役のトップアスリートとして成年選手の競技力向上を図ることを目的とする。

2 対象

「三重とわか国体」の正式競技に取り組んでいる現役の成年選手で、次に掲げる条件のいずれも満たし、採用後は「チームみえ」の一員として国民体育大会において入賞、もしくは入賞に導く能力を有する者とする。

- ① 国民体育大会や全日本選手権大会もしくはこれらに準ずる大会に出場し、個人は3位以上、団体は8位以上の成績を収めた者
- ② 将来、本県のジュニア・少年選手の指導者として活躍が期待される者
- ※ 本県の成年選手の競技力向上に必要な存在であり、三重県競技力向上対策本部が特別に認めた者については、上記の限りではないこととする。
- ※ 成績については、高等学校卒業後のものに限ることとする。

3 実施内容

- (1) 全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートをスポーツ指導員として選考・指定する。
- (2) ジュニア・少年選手の競技力向上を図るため、スポーツ指導員を学校運動部活動等の指導現場に派遣する。
- (3) 成年選手の競技力向上を図るため、スポーツ指導員を強化練習や合宿等の活動現場に派遣する。
- (4) スポーツ指導員の活動に係る旅費については、予算の範囲内で支出する。

4 年間計画

- 4月 協定書の締結
- 4月～ 各競技団体への派遣
- 9月～ 国民体育大会への派遣

トップアスリート就職支援事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【14,460千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートに対し、県内企業への就職支援を行うことで、平成33年の「三重とこわか国体」において天皇杯・皇后杯を獲得するとともに、大会終了後も安定した競技力を確保することを目的とする。

2 対象選手

「三重とこわか国体」の正式競技に取り組んでいる選手及び指導者で、次に掲げる条件のいずれかを満たし、採用後は「チームみえ」の一員として国民体育大会において入賞、もしくは入賞に導く能力を有する者とする。

- ① 国民体育大会や全日本選手権大会もしくはこれらに準ずる大会に出場し、個人・団体ともに8位以上の成績を収めた者
- ② 本県の成年選手の競技力向上に必要な存在であり、三重県競技力向上対策本部が特別に認めた者

※ 成績については、高等学校卒業後のものに限ることとする。

3 対象企業

県内に本社または事業所を有し、全国・国際スポーツ大会で活躍するトップアスリートを採用する意思のある企業とする。

4 実施内容

- (1) 「三重とこわか国体」に向けた成年選手強化に係る取組及び長期ビジョンを県内企業に説明し、トップアスリートの採用依頼を行う。
- (2) 求人・求職に係る情報の管理を行う。
- (3) 人物評価及び「三重とこわか国体」に向けた意気込み等を確認するために面接を行う。
- (4) 企業及びトップアスリートにとって有益なマッチングが図れるよう、調整を行う。
- (5) 企業及びトップアスリートに推薦者・推薦企業の打診を行う。
- (6) 採用選考の調整を行う。
- (7) トップアスリートが培ってきた知識や経験を発揮するとともに、競技活動にも集中して取り組めるよう、企業に対し、フォローアップを行う。

5 年間計画

4月～	トップアスリートの採用依頼
随時	求人・求職に係る情報の管理
	面接の実施
	マッチングの調整
	推薦者・推薦企業の打診
	採用選考の調整
	フォローアップの実施

チームみえ指導者研修事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【541千円】

1 目的

三重県代表チームの監督、コーチ等スタッフに対し、最新の指導理論、スポーツ医・科学に基づく知識等を習得させるための研修会を開催する。

また、短期的、中・長期的な視点に立った本県競技力の向上について、共通理解を深めるとともに、本県指導者の中核を担うための意識の醸成を図る。

2 対象

- ・各競技団体の本県代表チームの監督や選手選考に関わる指導者。
- ・競技者として本県で活動している成年選手。
- ・その他、競技団体が認めた者。

3 実施内容

- (1) 最新の指導理論、スポーツ医・科学等、本県競技力の向上のために必要な内容の研修会を開催する。
- (2) 短期的、中・長期的な視点に立った本県競技力の向上について指導者間で情報交換を行い、国民体育大会をはじめとする国内外の大会で活躍する選手の育成を促す。
- (3) 研修会を通じて、本県指導者の中核を担うという意識の醸成を図る。
- (4) 参加者に対し、予算の範囲内で旅費を支出する。

4 年間計画

2月 研修会実施

強化指定運動部、チーム指導者研修事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【1,972千円】

1 目的

平成28年度に強化指定されている運動部、チームの指導者に対し研修を実施することで、専門競技の異なる指導者との連携を図るとともに、指導者としての資質の向上を図る。

2 対象

平成28年度に強化指定されている運動部、チームの指導者

3 実施内容

- (1) 本事業においては、県内研修会において、最新の指導理論や指導方法を習得するとともに、専門競技の異なる指導者との連携を図り、本県競技力向上の中核を担う指導者としての意識の醸成を図る。
- (2) 指定する指導者のうち、希望する指導者には、中央競技団体や国立スポーツ科学センター等が実施する県外の研修会、セミナー及びトップレベルの指導現場等での研修への参加を支援する。県外研修に関しては、1人1回とする。
- (3) 指定する指導者には、県内研修及び県外研修会に参加する旅費、宿泊費の経費を予算の範囲内で支出する。

4 年間計画

5月	指定証交付、第1回県内研修
7～8月	第2回県内研修
随時	県外研修
12～2月	第3回県内研修

公認スポーツ指導者養成事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【330千円】

1 目的

国民体育大会の監督となるために必要な（公財）日本体育協会公認スポーツ指導者資格の取得を積極的に促進し、資格取得のための支援を行う。

2 対象

国民体育大会の正式競技である県内競技団体から推薦を受け、国民体育大会の監督資格に必要な（公財）日本体育協会公認スポーツ指導者資格を取得した者とする。

3 実施内容

- (1)（公財）日本体育協会公認スポーツ指導者の資格を取得するために、必要な経費の一部を補助する。
- (2) 対象となる指導者の種類
 - ・指導員
 - ・上級指導員
 - ・コーチ
 - ・上級コーチ
 - ・教師
 - ・上級教師
- (3) 補助対象とする経費については、資格取得のための共通科目及び専門科目受講にかかる経費とし、上限を15千円とする。
- (4) 各競技団体からの推薦によって資格取得した者に限る。1競技団体につき、2名程度とする。
- (5) 資格更新のための研修は対象外とする。

4 年間計画

4月 実施要項配布及び事業の実施

特別コーチ派遣事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【2,562千円】

1 目的

全国・国際スポーツ大会で活躍した選手、もしくは優れた指導実績を持つ指導者を競技団体に派遣することで、指導者の指導力向上や選手のパフォーマンスの向上を図り、国民体育大会における競技得点の獲得を目指す。

2 対象

国民体育大会の正式競技とする。

3 実施内容

- (1) 三重県競技力向上対策本部は、特別コーチの派遣を希望する競技団体を対象にヒアリングを行い、競技力の状況及び本事業における計画等を総合的に判断したうえで、派遣する競技団体を選考する。
- (2) 実施競技団体は、5～7競技団体とし、年1～2回重点的に指導するワンポイントコーチ、または年間を通じて指導する年間コーチを派遣する。
- (3) 実施競技団体は、特別コーチによる強化練習会や合宿等の計画を立て、実施する。
- (4) 特別コーチに対しては、旅費・報償費の経費を予算の範囲内で支出する。

4 年間計画

- | | |
|------|---------------|
| 5月 | 特別コーチ派遣競技団体決定 |
| 5～3月 | 特別コーチ派遣 |

環境整備補助事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【7,000千円】

1 目的

平成33年の「三重とわか国体」に向けて競技力の向上を図るため、競技団体に対し、強化活動等に必要な特殊用具等の購入に補助を行う。

2 対象

三重県体育協会加盟団体のうち、国民体育大会正式競技である競技団体で、特に高額で特殊用具等が必要であると認められる競技団体とする。

3 実施内容

- (1) 事業を希望する競技団体について、競技特性、用具の特殊性、見積価格、ヒアリングの内容、現地調査を総合的に精査し、予算の範囲内で補助金を交付する競技団体を決定する。
- (2) 予算の範囲内で補助を行う。
- (3) 競技団体は、備品台帳に当該備品を記載し、適切な管理を行うものとする。
- (4) 県は、本事業の実施状況について、実態調査を行うものとする。
- (5) 補助については、同一年度に1団体1回限りとする。

4 年間計画

4月	募集
5月	申請
6月	交付決定、備品購入
随時	実績報告

医・科学スタッフ派遣事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【3, 293千円】

1 目的

平成33年の「三重とこわか国体」において天皇杯、皇后杯の獲得を目指すため、競技団体が実施する強化練習会、強化合宿等（以下、「強化活動」という。）に、フィジカルトレーニングやコンディショニング、スポーツ心理学、スポーツ栄養学などの知識をもつ専門家（以下「専門家」という。）を派遣し、選手のパフォーマンスの向上や指導者の指導力の向上を図る。

2 対象

国民体育大会の正式競技で、三重県体育協会加盟の6競技団体程度とする。

3 実施内容

- (1) 競技団体が実施する国民体育大会に向けた強化活動において、スポーツ医・科学の専門家を年間5回程度招へいし、最新の手法や考え方による指導・助言を受け、選手のパフォーマンスの向上、指導者の指導力の向上を図る。
- (2) 三重県競技力向上対策本部は、事業を希望する競技団体を公募し、競技特性、これまでのスポーツ医・科学の導入状況、及びヒアリング内容等を総合的に精査し、実施する競技団体を決定する。
- (3) 競技団体は、スポーツ医・科学の手法や考え方を活かした強化活動の推進を図る。
- (4) 補助対象経費は、専門家の旅費、宿泊費、報償費とする。
- (5) 競技団体の選定については、三重県競技力向上対策本部と協議のうえ、委託事業者において行う。

4 年間計画

4月	募集
5月	派遣競技団体決定
随時	事業実施
3月	実績報告

みえのアスリート応援・発信事業 実施方針（案）

平成28年度当初予算【3,670千円】

1 目的

本県代表として活躍するアスリートを幅広く情報発信することで、スポーツを「みる」「支える」人との一体感を醸成する。

2 実施内容

(1) 広報紙の作成

県内で活躍しているアスリートを幅広く情報発信できるよう、広報紙の作成を行う。年2回程度発行を行う。

〔配布先〕

- ・ 県内の小中高等学校の児童生徒
- ・ 県内のスポーツ関連施設
- ・ イベント等

(2) チームみえ啓発物の作成

県代表選手の活躍を啓発できるよう、チームみえのロゴ等を使用した啓発物の作成を行う。

- ・ 県代表選手及びスタッフポロシャツ
- ・ 応援用グッズ等

3 年間計画

- | | |
|------|--------------------|
| 5月 | 「輝くみえのアスリートNEWS」発行 |
| 8～9月 | チームみえ啓発グッズ等作成 |
| 10月 | 「輝くみえのアスリートNEWS」発行 |

協議事項

育成期における競技力向上の取組について

育成期において男女総合順位10位台、獲得得点1,100点を目標として取組を進めるためには、少年種別において約60点、成年種別において約140点の競技得点の上乗せが必要です。このことから育成期の初年度となる平成28年度において、特に注力すべき取組について検討する必要があります。

1 ターゲットエイジの育成・強化の取組について

育成期における中学生は、平成33年の国民体育大会における少年選手の中心的な年代であることから、ターゲットエイジとして特に育成・強化の対象とする必要があります。

<専門委員会での意見等>

- ・中学生選手の強化のため、中学校での強化とジュニアクラブ等の強化を両輪で進める必要がある。
- ・高校強化指定運動部を入賞レベルに引き上げるためには、コーチの招聘や指導者の意識向上も重要である。

<対応する取組>

中学校運動部を引き続き強化指定し、中学生の強化練習の支援を重点的に行うとともに、ジュニアクラブの強化指定を増加させ、中学生選手の重点強化と有力選手の県外流出の抑制の取組を進める。

また、高校運動部において、育成期となる高校運動部の指定を見直したうえで、継続して強化指定するとともに、拠点化を進め、ターゲットエイジ（中学生）の強化を見据えた指導体制を整える。

2 成年選手の育成・強化について

平成33年の三重とこわか国体に向けては、成年種別における安定した競技力の確保が必要であり、成年選手の強化に係る取組を重点的に進める必要があります。

<専門委員会での意見等>

- ・トップアスリートと企業とのマッチングを行うにあたっては、競技団体や事務局が連携して取り組む必要がある。また、職場環境や練習環境の充実を図

るためには、トップアスリートや企業にフォローを行い、調整を図っていくことも重要である。

- ・「トップアスリート就職支援事業」を成功させるためには、三重とこわか国体をゴールとせず、一つのきっかけとしてスポーツ推進を図っていくというスタンスを企業側にも伝えたいうえで、実施する必要がある。そのためには、三重とこわか国体に向けて職員を臨時的に雇用するのではなく、計画的に正規職員として採用するとともに、採用した選手には適切な支援を行う等、総合的な働きかけが必要である。
- ・全国・国際スポーツ大会で活躍する本県出身の成年選手に対しても、継続的に強化活動を支援できるような仕組みをつくる必要がある。

<対応する取組>

平成28年度よりトップアスリートの就職支援に本格的に取り組み、平成29年4月以降に採用するトップアスリートを確保し、成年選手の競技力向上を目指す。

また、平成28年度より新たに成年選手を個人指定し、ジュニア・少年選手から成年選手にかけての継続的かつ戦略的な強化活動支援を行い、東京オリンピック競技大会や三重とこわか国体に向けた選手強化に努める。

3 女性アスリートのサポートについて

女性アスリートが競技を継続することができる体制づくりに引き続き取り組む必要があります。合わせて、平成28年の国民体育大会からオリンピック競技大会の実施競技種目に合わせ、9競技10種目の女子競技種目が導入されることに対応する取組が必要です。

<専門委員会での意見等>

- ・相談窓口の周知がさらに必要で利用の範囲を広げる等の工夫が必要。
- ・女子選手の指導への意識が非常に低く、女子選手の抱える課題に対する指導者の意識が低く、その対応策が現場では見つかっていない。
- ・女子選手のタレント発掘に取り組むことは重要だが、十分な連携や今後の見通しが重要である。

<対応する取組>

平成28年度は、本県の女性アスリートが抱える課題やその対応の情報を選

手、指導者および保護者に還元する等の意識醸成に向けた研修会を実施する。

また、選手や指導者、保護者が抱える個々の課題に対応するため、相談窓口を引き続き設置し、より相談しやすいしくみづくりや専門家を派遣する等、より効果的な事業実施を行う。

さらに平成28年度から、新たに優れた資質を持つ女子選手の発掘を行い、トップアスリートを育成する取組に着手する。

この取組については、平成33年三重とこわか国体後も継続的に取り組むことができるよう、JSC（日本スポーツ振興センター）や中央競技団体等とも連携し、トップアスリートを発掘するためのしくみを構築する必要がある。

平成27年度 中学校強化指定運動部の全国大会実績について

競技名	男子部	女子部	大会名	成績
バレーボール	松阪市立久保中学校	-		
卓 球	津市立橋南中学校	-	全国中学校体育大会	個人5位
柔 道	津市立久居中学校	-	全国中学校体育大会	個人2位
バスケットボール	-	四日市市立朝明中学校		
サッカー	-	-		
ハンドボール	菟野町立菟野中学校		全国中学校体育大会	団体5位
ソフトボール	-	度会町立度会中学校		
軟式野球	玉城町立玉城中学校	-		
ソフトテニス	-	熊野市立有馬中学校		
剣 道	桑名市立陵成中学校	-		
体操競技	-	-		
新 体 操	-	-		
バドミントン	-	伊勢市立小俣中学校		
相 撲	志摩市立磯部中学校	-		
水泳競技	-	紀北町立潮南中学校		
テ ニ ス	桑名市立明正中学校	-	全国中学生テニス選手権	団体2位
陸上競技	多気町松阪市学校組合立多気中学校		全国中学校体育大会	個人3位

14校14部

平成27年度強化指定ジュニアクラブの全国大会実績について

競技名	ジュニアクラブ名	大会名	成績
レスリング	一志ジュニアレスリング教室	全国中学生レスリング選手権	個人優勝・2位
水泳(水球)	三重ウォーターポロスターズ	JOCジュニアオリンピック夏季	3位

2クラブ

平成27年度高等学校強化指定運動部の全国高校総体・国体入賞状況

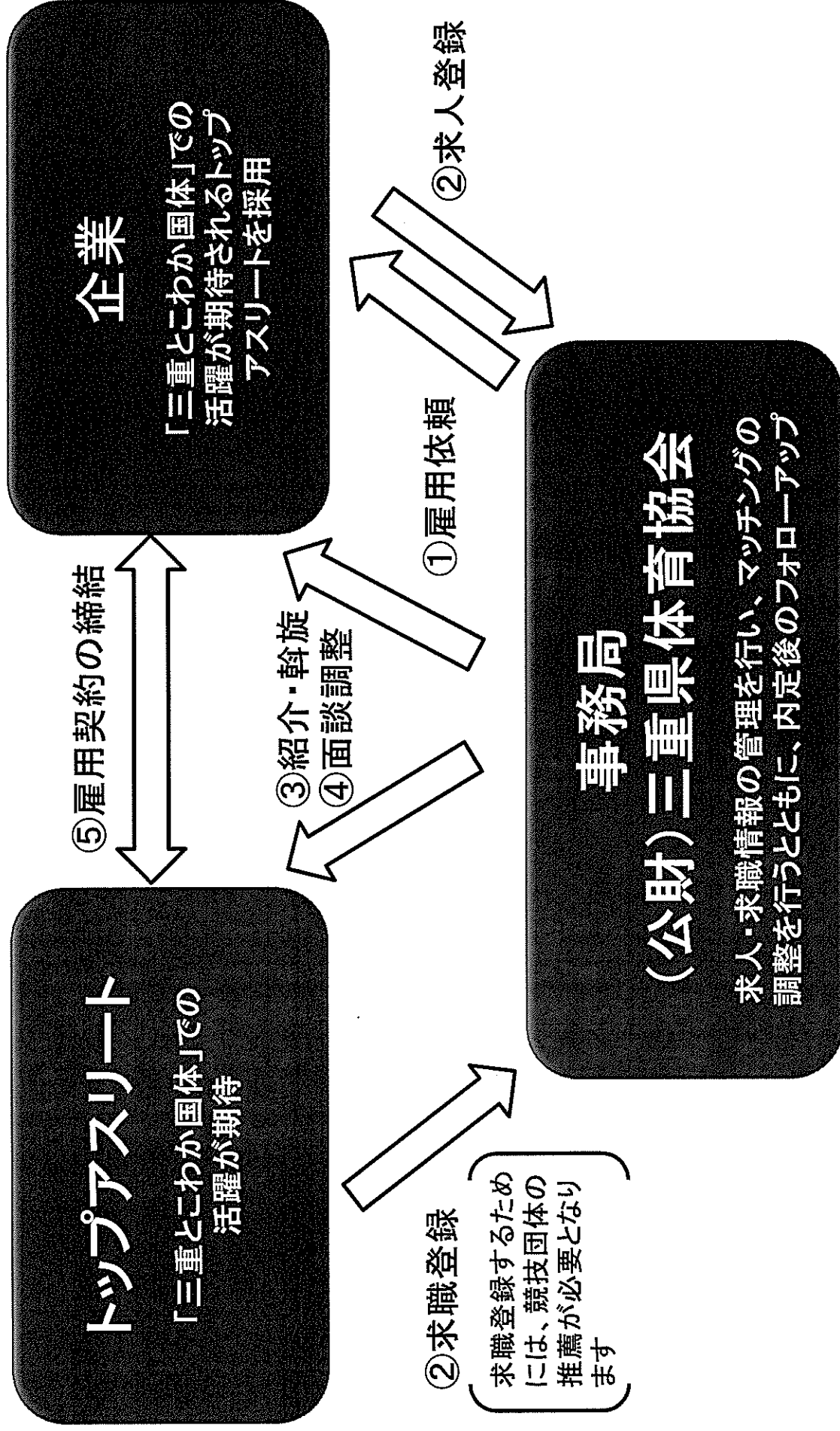
	競技名	強化指定運動部					
		男子	IH入賞	国体入賞	女子	IH入賞	国体入賞
1	陸上競技	四日市工業	個人1	0	宇治山田商業	0	0
	陸上競技(駅伝)	宇治山田商業	個人2	0	松阪商業	0	個人1
2	水泳(競泳)	伊賀白鳳	個人2	0	四日市商業	0	0
		尾鷲	0	個人1	津田学園	0	0
	水泳(飛込)	津田学園	0	個人1			
	水泳(水球)	四日市中央工業	—	—			
		稲生	—	—			
水泳(シンクロ/イスト/スイミング)							
3	サッカー	四日市中央工業	0	—	三重	—	—
4	テニス	四日市工業	団体3位、個人2	団体5位	四日市商業	0	0
5	ボート	津	0	—			
6	ホッケー						
7	ボクシング	久居	0	個人2			
8	バレーボール	松阪工業	0	0	津商業	—	—
9	体操(競技)	暁	0	—	暁	0	—
	体操(新体操)				名張	0	—
10	バスケットボール	四日市工業	0	—	四日市商業	0	団体5位
11	レスリング	いなべ総合学園	個人1	個人4			
		朝明	0	0			
12	セーリング	津工業	—	0			
13	ウェイトリフティング	四日市工業	団体優勝、個人12	個人4	亀山	個人2	
		四日市中央工業	個人5	0			
14	ハンドボール	四日市工業	0	0	四日市商業	0	団体5位
15	自転車	朝明	個人1	0			
16	ソフトテニス	三重	団体3位	0	三重	0	団体2位
17	卓球	白子	個人1	—	白子	0	—
18	軟式野球	高田	—				
19	相撲	宇治山田商業	0	0			
20	馬術			高田		0	0
21	フェンシング	津東	0	—	津東	0	—
22	柔道	四日市中央工業	個人2	—	名張	0	—
23	ソフトボール	津西	0	—	伊勢学園	0	—
24	バドミントン	暁	0	0	皇學館	0	0
25	弓道	松阪工業	0	—	伊勢学園	—	—
26	ライフル射撃	久居	0	0	久居	0	0
27	剣道	三重	0	—	鈴鹿	—	—
28	ラグビーフットボール	朝明	0	—			
29	山岳						
30	カーヌー	桑名西	0	—			
31	アーチェリー	海星	0	—	四日市四郷	団体2位	団体4位
32	空手道				川越	0	—
33	銃剣道	皇學館	0	—			
34	クレー射撃						
35	なぎなた				稲生	0	0
36	ボウリング	津田学園	個人2	団体2位	津田学園	個人1	個人1
37	ゴルフ	津田学園	0	0	津田学園	0	0
38	スケート	—			—		
39	アイスホッケー	—			—		
40	スキー	—			—		
41	硬式野球	いなべ総合学園	0		—		

入賞実績22部/指定運動部66部

個人(数):個人入賞(件数)、団体:団体入賞
 0:インターハイ・国体に出場したものの入賞なし
 -:インターハイ・国体への出場がない

※インターハイで実施されていない競技は同時期に行われている全国大会の結果

トップアスリート就職支援事業 事業スキーム



トップアスリート就職支援事業に係る企業訪問の状況

1	百五銀行(株)	46	ヤマモリ(株)	91	朝日ガスエナジー(株)
2	I C D Aホールディングス(株)	47	(株)三重銀行	92	スーパーサンシ(株)
3	三重化学工業(株)	48	亀山急送(株)	93	(株)日本陸送
4	辻製油(株)	49	三重リコピー(株)	94	(株)ストーリーホテル
5	赤福(株)	50	N T T(株)三重支店	95	(株)光機械製作所
6	井村屋グループ(株)	51	三重県信用保証協会	96	スズキ(株)
7	北伊勢上野信用金庫	52	東海土建(株)	97	チヨダウーテ(株)
8	(株)Z T V	53	宇野重工(株)	98	J Aー志東部
9	桑名信用金庫	54	松阪興産(株)	99	J A伊賀南部
10	堀田建設(株)	55	(株)北村組	100	J A多気郡
11	医療法人社団主体会病院	56	(株)オオコーチ	101	東邦地水(株)
12	サンジルス醸造(株)	57	松阪精工(株)	102	(株)シー・ティー・ワイ (CTY)
13	光精工(株)	58	クラギ(株)	103	(株)扇港電機
14	J A伊勢	59	岡田パッケージ(株)	104	三岐鉄道(株)
15	社会福祉法人恒心福祉会うがた苑	60	有徳園	105	(株)東海クボタ
16	シンフォニアエンジニアリング(株)	61	第三銀行	106	(株)ロンビック
17	三水フーズ(株)	62	三重信用金庫	107	九鬼産業(株)
18	(株)コスモスコーポレーション	63	(株)松和産業	108	旭電気(株)
19	(株)サイネックス	64	塩川病院	109	昭和四日市石油(株)
20	(株)ぎゅうとら	65	三重トヨタ自動車(株)	110	(株)ベストックスキョーエイ
21	シンフォニアテクノロジー(株)	66	岡三証券	111	住友電装(株)
22	(株)U L ジャパン	67	(株)エクセディ	112	光洋メタルテック(株)
23	キクカワエンタープライズ(株)	68	(株)松阪鉄工所	113	(株)日本グリーン
24	御木本製薬(株)	69	三重ダイハツ販売(株)	114	(株)ダイハツ三重
25	三重総合警備保障(株) (アルソック三重)	70	中部電力(株)	115	(株)交洋
26	石川商工(株)	71	(株)中日三重サービスセンター	116	(株)三重平安閣
27	万協製薬(株)	72	三重いすゞ自動車(株)	117	内田鍛工(株)
28	J Aみえきた	73	イオンリテール(株)	118	志摩市観光協会
29	サラヤ(株)	74	マックスバリュー中部(株)	119	(一社)志摩スポーツコミッション
30	三重交通(株)	75	旭鍍金	120	(株)合歡の郷
31	グリーンズホテルズ	76	中央商産(株)	121	三重機械鐵工(株)
32	J Aグループ三重	77	J A津安芸	122	セントラル硝子プラントサービス(株)
33	美和ロック(株)	78	(株)長工	123	(株)松阪電子計算センター
34	廣瀬精工(株)	79	J A松阪		
35	セコム三重(株)	80	J A鈴鹿		
36	(株)津松菱	81	J A伊賀北部		
37	旭電器工業(株)	82	J A三重中央		
38	旭工機(株)	83	エバ工業(株)		
39	(株)ビーイング	84	カネソウ(株)		
40	(株)日硝ハイウエー	85	(株)M I Eテクノ		
41	トリックス(株)	86	大起産業(株)		
42	(株)中勢ゴム	87	長島観光開発(株)		
43	(株)メディカルー光	88	三重重工業(株)		
44	三重金属工業(株)	89	東海コンクリート工業(株)		
45	扶桑工機(株)	90	アサヒグローバル(株)		

平成28年3月23日現在

トップアスリート就職支援にかかる就職支援希望数

年度	H28	H29	H30	H31	H32	H33	合計
就職支援希望数	3	37	57	70	51	34	252

「国民体育大会における2020年オリンピック対策・実行計画」に伴う
各大会において正式競技として実施する競技(種目・種別)について

H27.12.10「平成27年度第3回国民体育大会委員会」終了時点

1 実行計画における導入予定競技(種目・種別)

	競技	種目	種別
1	水泳	水球	女子
2		オープンウォーター	男子・女子
3	ボクシング		女子
4	バレーボール	ビーチバレー	男子・女子
5	体操	トランポリン	男子・女子
6	レスリング		女子
7	ウエイトリフティング		女子
8	自転車	トラック・ロード	女子
9	ラグビーフットボール	7人制	女子

2 導入が決定した競技(種目・種別)

(1) 第71回岩手大会

	競技	種目	種別
1	水泳	オープンウォーター	男子・女子
2	ボクシング	フライ級	成年女子
3	レスリング	フリースタイル53kg級	女子
4	ウエイトリフティング	53kg以下級、63kg以下級	女子
5	自転車	【トラック】ケイリン、スクラッチ、チーム・スプリント	女子
6	ラグビーフットボール	7人制	女子

実施されない競技/種目/種別

・バレーボール/ビーチバレー/男子・女子

未対象の競技/種目/種別

・水泳/水球/女子
・体操/トランポリン/男子・女子

(2) 第72回愛媛大会

	競技	種目	種別
1	水泳	オープンウォーター	男子・女子
2	ボクシング	フライ級	成年女子
3	バレーボール	ビーチバレーボール	男子・女子
4	レスリング	フリースタイル53kg級	女子
5	ウエイトリフティング	53kg以下級、63kg以下級	女子
6	自転車	【トラック】ケイリン、スクラッチ、チーム・スプリント	女子
7	ラグビーフットボール	7人制	女子

未対象の競技/種目/種別

・水泳/水球/女子
・体操/トランポリン/男子・女子

(3) 第73回福井大会

	競技	種目	種別
1	水泳	オープンウォーター	男子・女子
2	ボクシング	フライ級	成年女子
3	バレーボール	ビーチバレーボール	男子・女子
4	レスリング	フリースタイル53kg級	女子
5	ウエイトリフティング	53kg以下級、58kg級、63kg以下級	女子
6	自転車	【トラック】ケイリン、スクラッチ、チーム・スプリント	女子
7	ラグビーフットボール	7人制	女子

実施されない競技/種目/種別

・水泳/水球/女子
未対象の競技/種目/種別
・体操/トランポリン/男子・女子

3 導入対象となること決定した競技(種目・種別)

(1) 第74回茨城大会

	競技	種目	種別
1	水泳	水球	女子
2		オープンウォーター	男子・女子
3	ボクシング	フライ級	成年女子
4	バレーボール	ビーチバレー	男子・女子
5	体操	トランポリン	男子・女子
6	レスリング	フリースタイル53kg級、63kg級	女子
7	ウエイトリフティング	53kg以下級、58kg級、69kg以下級	女子
8	自転車	【トラック】ケイリン、スクラッチ、チーム・スプリント 【ロード】個人ロードレース	女子
9	ラグビーフットボール	7人制	女子

未対象の競技/種目/種別

・ボクシング/ライト級/女子

月経に関する本県強化選手の現状

～本県強化指定選手と国内トップアスリートとの比較～

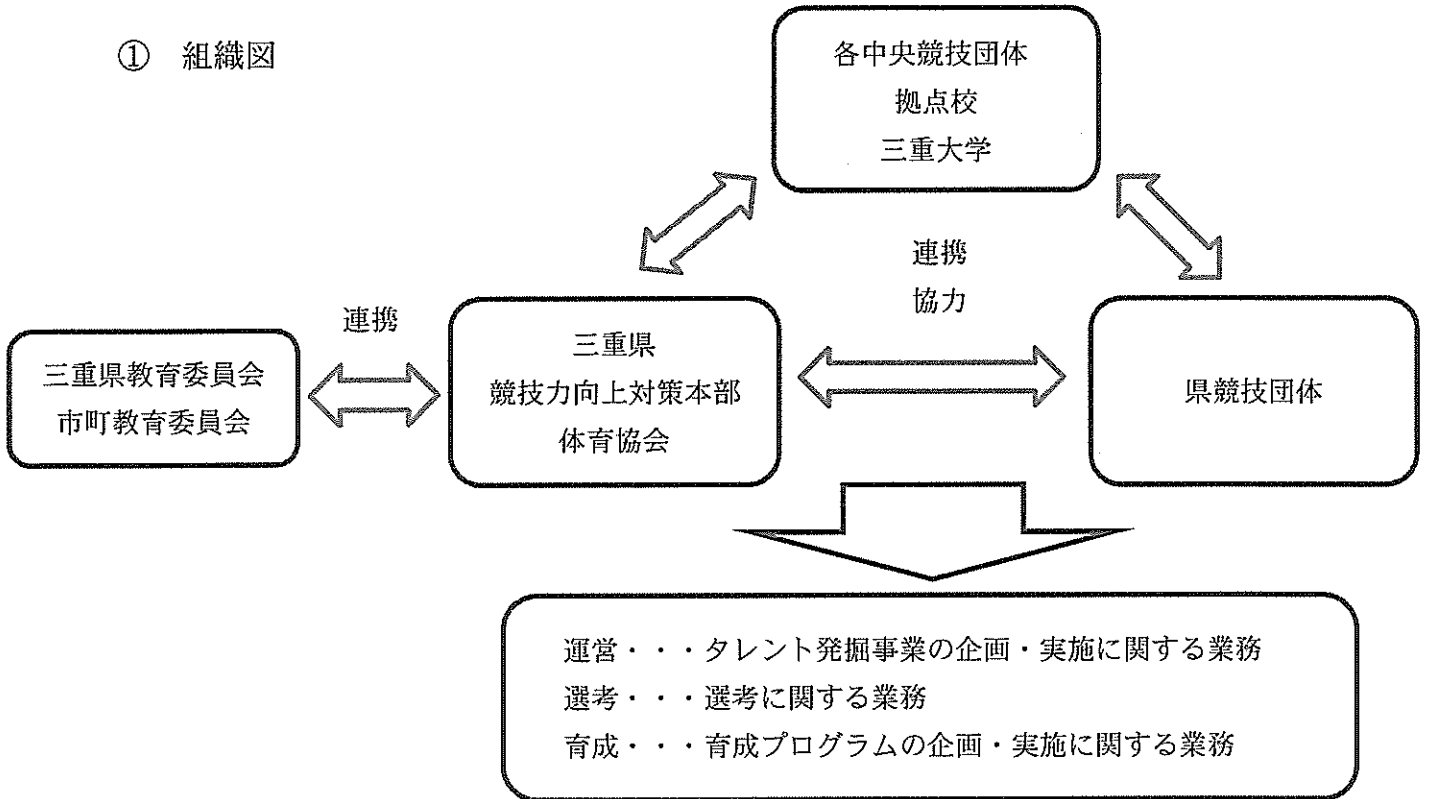
		国内 トップアスリート 242名 ※1	本県 強化指定選手 310名 ※2	
1	月経に対する不安を持っている選手の割合	約40%	27.2%	
2	産婦人科受診率	30%	9%	
	受診理由(延べ人数)	月経への不安	29名	13名
		月経痛	15名	7名
		検診	15名	7名
その他		16名	7名	
3	月経に対するセルフケアをしている人の割合	36.4%	17.3%	
	ケア内容(延べ人数)	薬の服用	67名	37名
		基礎体温の計測	22名	11名
		練習量の調整	15名	5名
		周期に合わせた薬の服用	6名	4名
その他		2名	4名	
4	月経移動の知識について知っている人の割合	53.3%	6.1%	
	月経移動について (延べ人数)	必要はない	66名	208名
		移動したことがある	11名	26名
		日頃からしている	5名	7名
		移動してみたい	40名	24名
	してみたいが、実施しない理由 (延べ人数)	不安	27名	14名
		副作用が心配	3名	10名
		ドーピングが心配	2名	5名
その他		10名	5名	

※1 国内トップアスリートの数値についてはJISS調べ(女性アスリートのためのコンディショニングブック(2013))参照

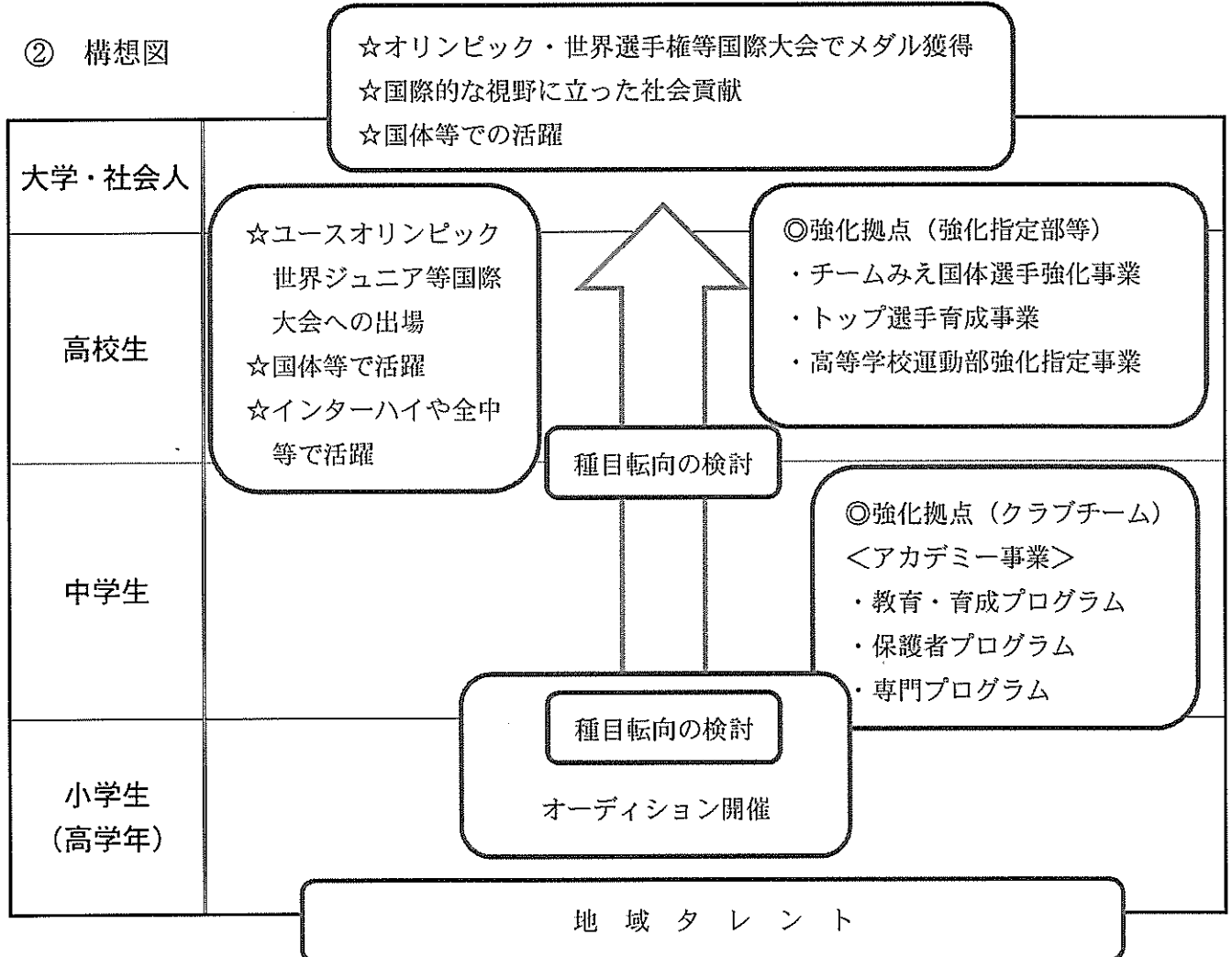
※2 本県強化指定選手のアンケート結果より抽出(2015年7月28日 三重県体育協会)

三重県タレント発掘・育成スキーム（案）

① 組織図



② 構想図



女性アスリート タレント発掘・育成事業に係る組織体制について(案)

運営委員会
・事業計画にかかる内容の検討および決定

選考委員会
・1次、2次オーディション内容の検討
・タレント選考と決定

プログラム委員会
・育成・教育プログラム等の内容の検討と決定
・専門プログラムの内容の検討と決定

運営委員会

委員長:1名

選出区分	所属機関・団体・役職名
県関係	三重県地域連携部スポーツ推進局

委員:9名

選出区分	所属機関・団体・役職名
県関係	三重県地域連携部スポーツ推進課
市町関係	市町スポーツ主管課
学校関係	三重県教育委員会
スポーツ関係団体関係	(公財)三重県体育協会
学識経験者	大学関係
競技団体	中央競技団体 県競技団体

プログラム委員会

委員長:1名

選出区分	所属機関・団体・役職名
県関係	三重県地域連携部スポーツ推進局スポーツ推進課

委員:8名

選出区分	所属機関・団体・役職名
競技団体	中央競技団体
育成プログラム指導者	プログラム指導担当者(大学、県体育協会スポーツ医科学委員会)
専門プログラム指導者	県競技団体

選考委員会

委員長:1名

選出区分	所属機関・団体・役職名
県関係	三重県地域連携部スポーツ推進局スポーツ推進課

委員:5名

選出区分	所属機関・団体・役職名
競技団体	中央競技団体 県競技団体

オブザーバー

1名

選出区分	所属機関・団体・役職名
学識経験者	日本スポーツ振興センター(JSC)

タレント発掘・育成事業計画(案)

年	月	事業計画	職務内容及び検討事項
27	12		・事業実施の可否決定、toto申請
28	1		・運営委員会・プログラム委員会・選考委員会 組織、メンバーの選定 ・中央競技団体、県競技団体の連携 ・三重大学等高等教育機関との連携
	2		
	3		
	4		・運営委員会・プログラム委員会・選考委員会 組織の決定 ・各委員会の実施
	5	運営委員会立ち上げ 各委員会立ち上げ	
	6		・オーディションチラシ配布 ・募集
	7		
	8	一次オーディション 一次オーディション選考委員会	
	9		・オーディション実施 ・タレント選考と決定
	10	二次オーディション 二次オーディション選考委員会	
	11		・指定証交付実施 ・教育・育成プログラム実施
	12	指定証交付 教育・育成プログラム	
29	1		教育・育成プログラム (月2回程度) ・身体能力→各種フィジカルトレーニング等 ・知的能力→アスリートの人間性向上 ・保護者等→食習慣栄養等
	2		
	3		
	4		
	5		JSC・中央競技団体 プログラム指導者(学識経験者) プログラム指導者(県競技団体)
	6		
	7		専門プログラム (週2回程度)
	8	一次オーディション 一次オーディション選考委員会	
	9		JSC・中央競技団体 県競技団体(ラグビー) ※パールズ
	10	二次オーディション 二次オーディション選考委員会	
	11		
	12	指定証交付 教育・育成プログラム	
30	1		JSC・中央競技団体 県競技団体(ラグビー) ※パールズ
	2		
	3		

競技団体の戦略的な支援について

平成28年度から「育成期」を迎えるにあたり、男女総合順位の10位台、競技得点1100点という目標を各競技団体と共有したうえで、競技団体の現状分析や選手育成の状況、強化計画等を、対策本部と競技団体とが評価を行うことにより、下記のA～D群に区分し、戦略的な活動の支援を行うように進めていきます。

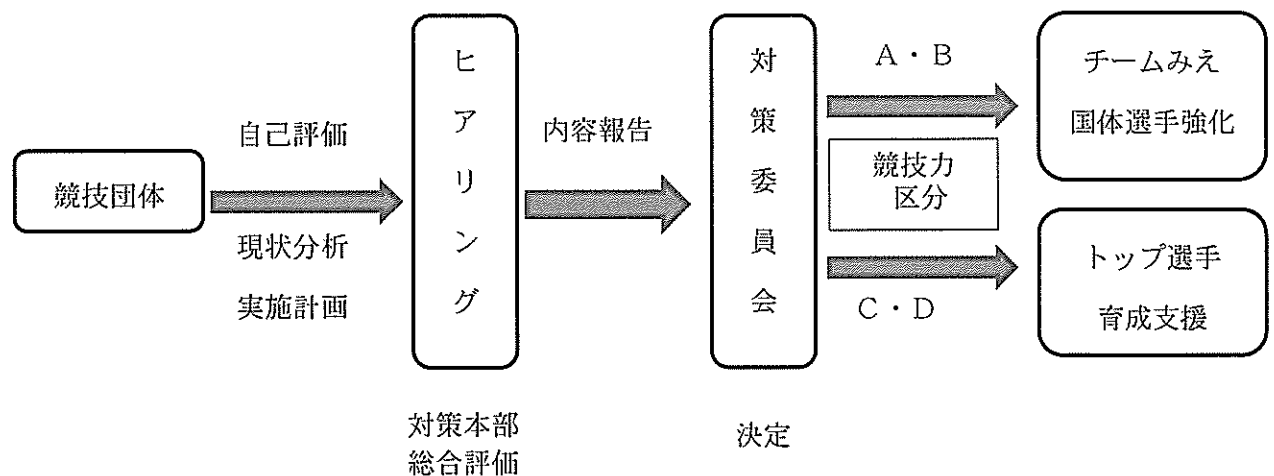
1 競技団体の区分

	評価の目安	取組
A群	安定して得点しており、平成33年まで引き続き得点が見込め、さらに上位入賞を狙うことができる競技、種別。	さらに上位入賞を狙うために必要な取組を支援します。
B群	国体で入賞レベルに達してきており、平成28年岩手国体で入賞を狙うことができる競技、種別。	確実に入賞するために必要な取組を支援します。
C群	本国体で入賞実績を有することもあるが、2～3年先に確実に入賞できるレベルに到達することを狙う競技、種別。	中長期の計画的な取組を支援します。
D群	未成熟で強化体制の整備を必要としており、主体的な強化に取り組めるようにする必要がある競技、種別。	主体的に強化が図れるよう、自立にむけた取組を支援します。

2 評価の手順

競技団体の自己評価をもとにヒアリングを行い、A～Dに区分する。

その区分に応じて、今後の競技力向上の計画を共有する。



3 平成28年度競技団体評価（案）について

各競技団体より提出された分析シート、及びヒアリング等により評価を行いました。（資料）

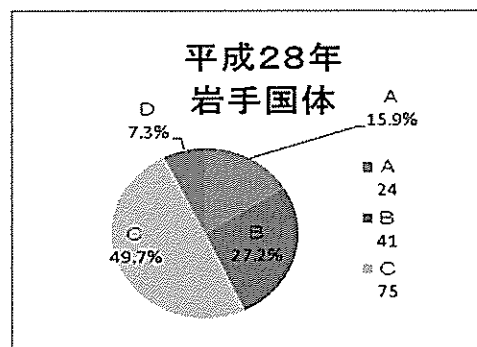
平成28年度競技団体評価（岩手国体）

A群…24種別（16%）

B群…41種別（27%）

C群…75種別（50%）

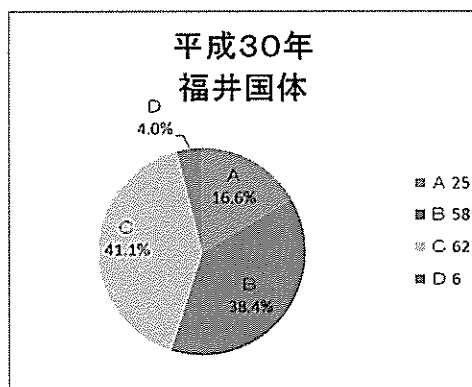
D群…11種別（7%）



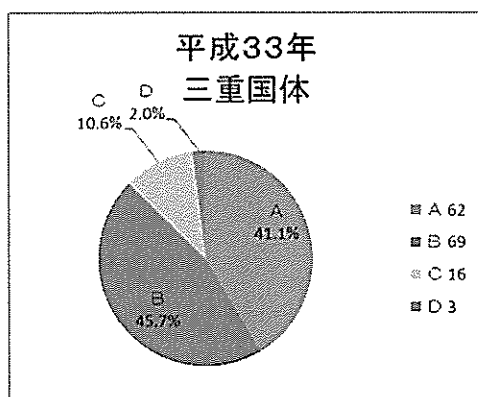
4 競技団体評価の今後の活用、目標について

競技力向上対策基本方針の目標における競技得点を獲得するため、競技団体の評価を活用した計画や体制を整えることで、各競技種別が上位の評価へ移行できるよう、取組を進める必要がある。

平成30年競技団体評価目標（福井国体）…育成期最終年



平成33年競技団体評価目標（三重国体）



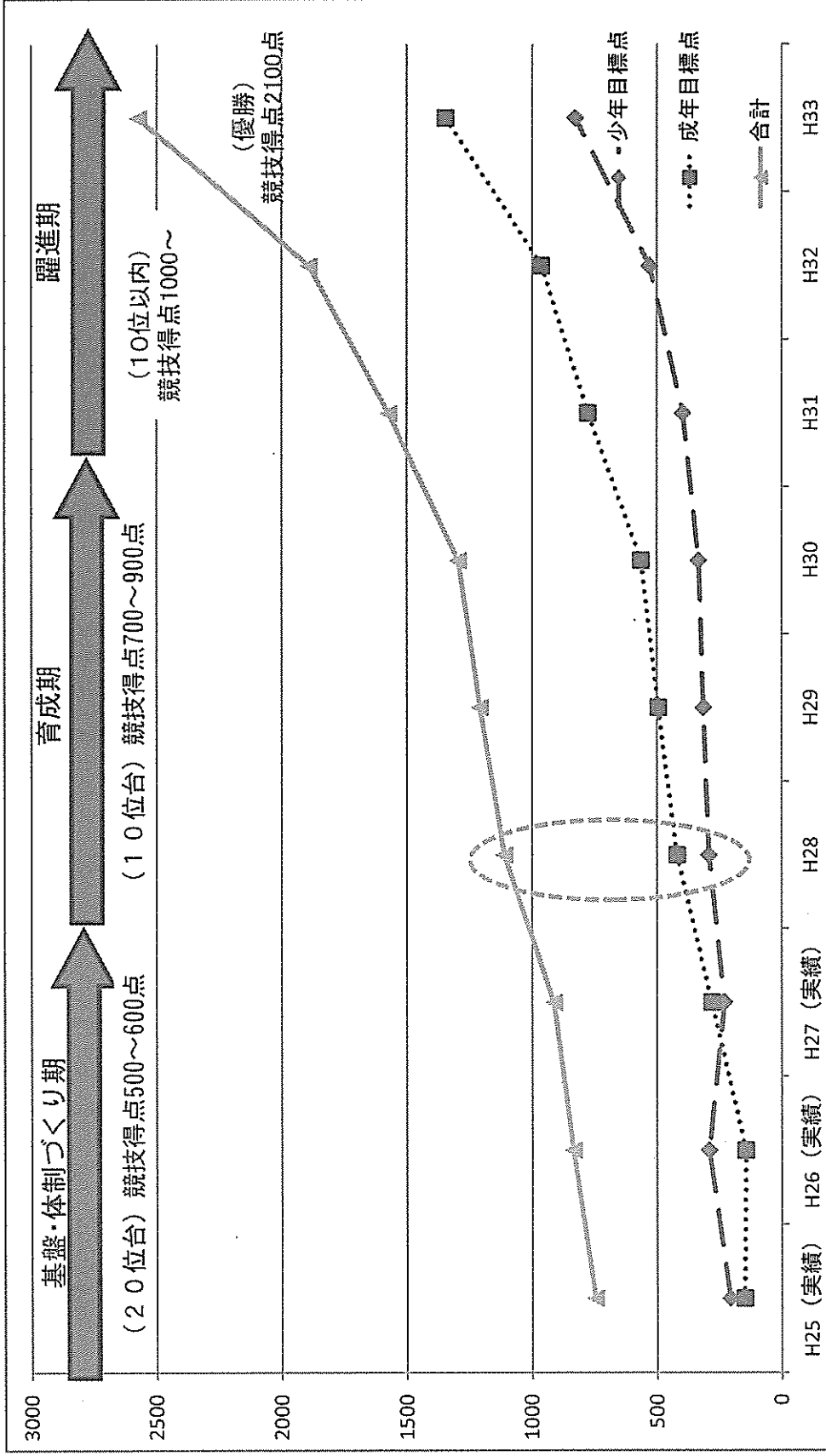
平成28年度競技団体評価 (案)

No.	競技名	種別	区分
1	陸上競技	成年男子	A
		成年女子	A
		少年男子	A
		少年女子	A
2	水泳 (水球)	少年男子	B
		成年男子	A
	水泳 (飛込)	成年女子	C
		少年男子	C
		少年女子	D
	水泳 (シンクロ)	少年女子	C
		成年男子	A
	水泳 (競泳)	成年女子	B
		少年男子	A
		少年女子	B
オープンウォーター	男子	C	
	女子	C	
3	サッカー	成年男子	B
		女子	B
		少年男子	C
4	テニス	成年男子	A
		成年女子	B
		少年男子	A
		少年女子	B
5	ボート	成年男子	A
		成年女子	D
		少年男子	C
		少年女子	C
6	ホッケー	成年男子	C
		成年女子	C
		少年男子	C
		少年女子	D
7	ボクシング	成年男子	B
		少年男子	B
		女子	D
8	バレーボール	成年男子	C
		成年女子	C
		少年男子	C
		少年女子	C
9	体操 (競技)	成年男子	A
		成年女子	C
		少年男子	C
		少年女子	C
	体操 (新体操)	少年女子	C
10	バスケットボール	成年男子	B
		成年女子	C
		少年男子	C
		少年女子	C
11	レスリング	成年男子	A
		女子	A
		少年男子	A

No.	競技名	種別	区分
12	セーリング	成年男子	A
		成年女子	C
		少年男子	C
		少年女子	B
13	ウエイトリフティング	成年男子	A
		女子	B
		少年男子	A
14	ハンドボール	成年男子	B
		成年女子	B
		少年男子	B
		少年女子	A
15	自転車競技	成年男子	B
		女子	C
		少年男子	B
16	ソフトテニス	成年男子	C
		成年女子	C
		少年男子	B
		少年女子	A
17	卓球	成年男子	B
		成年女子	B
		少年男子	C
		少年女子	C
18	軟式野球	成年男子	B
19	相撲	成年男子	B
		少年男子	C
20	馬術	成年男子	A
		成年女子	A
		少年	B
21	フェンシング	成年男子	A
		成年女子	B
		少年男子	C
		少年女子	C
22	柔道	成年男子	B
		成年女子	C
		少年男子	C
		少年女子	C
23	ソフトボール	成年男子	C
		成年女子	C
		少年男子	C
		少年女子	B
24	バドミントン	成年男子	C
		成年女子	C
		少年男子	C
		少年女子	B
25	弓道	成年男子	B
		成年女子	B
		少年男子	B
		少年女子	C
26	ライフル射撃	成年男子	B
		成年女子	C
		少年男子	C
		少年女子	C

No.	競技名	種別	区分
27	剣道	成年男子	C
		成年女子	C
		少年男子	C
		少年女子	C
28	ラグビーフットボール	成年男子	C
		女子	B
		少年男子	B
29	山岳	成年男子	B
		成年女子	C
		少年男子	C
		少年女子	C
30	カヌー (SP)	成年男子	A
		成年女子	D
		少年男子	C
	カヌー (SW)	少年女子	D
		成年男子	D
		成年女子	C
31	アーチェリー	成年男子	B
		成年女子	C
		少年男子	C
		少年女子	B
32	空手道	成年男子	B
		成年女子	C
		少年男子	C
		少年女子	C
33	銃剣道	成年男子	C
		少年男子	C
34	クレール射撃	成年男子	C
35	なぎなた	成年女子	C
		少年女子	C
36	ボウリング	成年男子	C
		成年女子	B
		少年男子	A
		少年女子	C
37	ゴルフ	成年男子	B
		女子	C
		少年男子	B
38	スケート	成年男子	C
		成年女子	D
		少年男子	D
		少年女子	D
39	アイスホッケー	成年男子	C
		少年男子	D
40	スキー	成年男子	B
		成年女子	C
		少年男子	C
		少年女子	C
41	トライアスロン	成年男子	C
		成年女子	C

国民体育大会目標競技得点



目標競技得点

	H25 (実績)	H26 (実績)	H27 (実績)	H28	H29	H30	H31	H32	H33
少年目標点	206.0	290.0	230.0	291.0	313.5	332.5	396.0	529.0	826.5
成年目標点	149.0	144.0	280.0	419.5	494.5	562.5	775.5	960.5	1345.5
参加点	390.0	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0
合計	745.0	834.0	910.0	1110.5	1208.0	1295.0	1571.5	1889.5	2572.0

參考資料

三重県競技力向上対策委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、三重県競技力向上対策本部規約第11条の規定に基づき、三重県競技力向上対策委員会（以下「委員会」という。）の組織および運営に必要な事項を定める。

(業務)

第2条 委員会は、本部会議から付託および委任された専門的な事項について、調査・審議する。

(役員)

第3条 委員会に次の役員を置く。

(1) 委員長 1名

(2) 副委員長 若干名

2 役員は、本部長が委嘱する。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(委員)

第4条 委員は、次の各号に掲げる者のうちから本部長が委嘱した委員をもって構成する。

(1) 県関係者

(2) 市町関係者

(3) 産業・経済関係者

(4) 学校・スポーツ団体関係者

(5) 学識経験者

(6) その他本部長が特に必要と認める者

(委員の任期)

第5条 委員及び役員の任期は、本会の目的が達成された日までとする。ただし、委員が就任時の所属機関及び団体等の役職を離れた場合、その委員は辞任したものとみなし、その後任者が前任者の残任期間を務めるものとする。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ開会できない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員長が必要と認めるときは、委員以外に専門的知識を有する者の出席を求め、必要に応じて専門委員会を開催し、意見を聞くことができる。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が本部長の承認を得て別に定める。

附 則

この規程は、平成25年5月29日から施行する。

三重県競技力向上対策本部 競技力向上対策委員会

(委員長：1名、副委員長：1名、委員：21名、計：23名)

【委員長：1名】敬称略

選出区分	所属機関・団体・役職名	氏名
県関係	三重県地域連携部スポーツ推進局長	村木 輝行

【副委員長：1名】敬称略

選出区分	所属機関・団体・役職名	氏名
学校・スポーツ 団体関係	公益財団法人三重県体育協会理事長	東地 隆司

【委員：20名】敬称略、順不同

選出区分	所属機関・団体・役職名	氏名
県関係	三重県教育委員会事務局次長	中嶋 中
市町関係	伊勢市産業観光部観光振興課副参事	松葉 清高
	東員町教育委員会事務局社会教育課長	石川 清
産業・経済関係	株式会社 エクセディ 執行役員管理本部副本部長	山村 佳弘
	株式会社デンソー大安製作所長	堀 誠
	本田技研工業株式会社四輪生産統括部鈴鹿製作所 総務ブロック ブロックリーダー	柳田 雅彦
	相好株式会社代表取締役	山本 将之
学校・スポーツ 団体関係	公益財団法人三重県体育協会強化・普及委員会委員長	沖田 稔
	三重県中学校体育連盟理事長	太田 秀樹
	三重県高等学校体育連盟理事長	堀越 英範
	鈴鹿市立神戸中学校 剣道部顧問	北林 奈津子
	県立宇治山田商業高等学校 陸上競技部顧問	小池 弘文
	県立朝明高等学校 レスリング部顧問	橋爪 幸彦
	県立四日市中央工業高等学校 サッカー一部顧問	樋口 士郎
	三重高等学校 ソフトテニス部顧問	神崎 公宏
	皇學館大学 柔道部監督	佐藤 武尊
	三重バイオレットアイリス監督	櫛田 亮介
	三重県水泳連盟強化責任者（競泳）	八田 知宏
三重県ボート協会強化責任者	丸山 亮太	
学識経験	社会医療法人峰和会鈴鹿回生病院院長	加藤 公
	三重大学教育学部教授	杉田 正明



平成33年 第76回国民体育大会
2021

愛称

三重とわか国体

スローガン

ときめいて人がやいて未来